

地域アクションプランの 平成25年度の進捗状況等

・全体まとめ	1
1 平成25年度の主な成果		
2 各地域の主な動き		
・安芸地域	10
・物部川地域	26
・高知市地域	42
・嶺北地域	54
・仁淀川地域	64
・高幡地域	78
・幡多地域	90

地域アクションプランの進捗状況等について

1 平成25年度の主な成果

◆これまでの取り組みを土台に、各取り組みがステージアップ 地域資源の活用がさらに進み、地産外商や地域が主体となった観光振興の取り組みが活発に

【外商を見据えた動きがさらに活発化】

- 粟や水産物を活用した新たな加工施設の整備が進む
- 需要の増大に対応して、土佐備長炭や竹製ハンドル、土佐あかうしなどで生産体制をさらに強化
- アドバイザー活用などにより、外商を狙いとした新商品が誕生
- 県外・海外の見本市に出展し、外商に挑戦。ヨーロッパ向けのユズ青果の輸出が拡大

【広域観光組織の活動が活発化し、地域が主体となった観光振興の取り組みが進む】

- 地域主体の博覧会「楽しまん！はた博」の開催により、地域の連携強化や観光意識の向上が進む
- 「奇跡の清流」仁淀川で、引き続き順調に入込客数を増やすとともに、観光資源の充実やセールス活動を展開
- 地域が主体となった博覧会の開催に向けて準備が進む（H27安芸地域、H28高幡地域）

【地域における新たな連携・協働の動きが進む】

- 地域おこし協力隊員による「集落活動センター」の運営支援や県外大学等と連携した観光商品の磨き上げなど、地域アクションプランの取り組みにおいて外部人材の活用が広がる
- 直販所や道の駅などの新設・拡充により各地で拠点となる施設が完成・オープン。地域における加工品づくりとの連携が進む

◆産業振興の取り組みを地域地域に広げるために広報活動や人材育成等を強化

（土佐まるごとビジネスアカデミーのバージョンアップ、各地でのシンポジウムの開催、ホームページ等での実践者の取り組み事例の紹介、土佐の産業おこし参加プランの募集、包括協定に基づく金融機関との連携強化など）

⇒平成26年度の新たな地域アクションプランが15件追加され、これまでで最多の245件の地域アクションプランを推進していくこととなった。

引き続き、広報や啓発活動に工夫をこらしながら、参画を促していく。

■地域アクションプラン数

	安芸	物部川	高知市	嶺北	仁淀川	高幡	幡多	計
H25当初	30	23	32	28	38	37	42	230
追加		1				5		6
H25最終	30	24	32	28	38	42	42	236
追加	6					5	4	15
統合・削除	▲2				▲2	▲1	▲1	▲6
H26当初	34	24	32	28	36	46	45	245

■主な支援策の活用状況（平成25年度）

- ・総合補助金 23事業 総事業費 894,155千円（県補助金額356,229千円）
- ・産業振興アドバイザー事業 採択件数57件、指導・助言回数161回
（うち地域支援にかかるもの 採択件数43件、指導・助言回数128回）

■主な成果（平成25年度）

- ・地域アクションプランによる雇用の創出 158人（うち総合補助金導入事業関連 45人）

※いずれもH26.3月末見込み

2 各地域の主な動き

仁淀川地域

「宇佐の一本釣りうめ」や「本川きじ」など地域の特産品を活用した新商品の開発や販路の拡大が進んでいる。

また、土佐市の集客施設「ドラゴン広場」がオープンしたほか、日高村の「さんさん市」でも施設の拡充に向けて準備が進んでいる。

観光面では、カヌーやラフティングなどの体験型観光の入込客が増加しているほか、仁淀川流域全体の観光情報発信やツアー造成に取り組んでいる「仁淀川地域観光協議会」関連のツアーも参加者数を大きく増やしている。

地域の4町村と民間団体が、連携して観光・交流人口の拡大や移住促進の取組を行い、県外大学等との連携交流や大阪圏都市部からのインターンシップ研修生の受け入れなど人的・物的交流への継続的な取り組みとともに担い手確保にも取り組んでいる。

また、地域内での担い手育成として嶺北高校と地域内企業が連携して地域の特産品（米粉等）を使った新商品の販売も始まっている。

ブランド米「土佐天空の郷」は米食味分析鑑定コンクールで都道府県代表として金賞を受賞し、ブランド米としての地位を確立しつつあるほか、関連商品として新たな加工品（米焼酎等）もでき、販売も始まった。

土佐あかうしは、生産力の強化に向けて、順次施設の整備を進めており、これまでのブランド化への取組の結果、市場での評価が高まっているなかで、供給体制の整備に努めている。

嶺北地域

JA長岡で「あけぼの街道」の全面開通を好機ととらえ移転拡充を進めてきた「あけぼの市」が、直販所「なの市」、飲食店「なのカフェ」としてH26年4月にオープンする。

また、「ごめんケンカシャモ」は、イベントや商談会等での販促活動に加えて、貯卵・孵卵施設整備を行うなど生産体制の整備が図られている。

観光面では、「土佐塩の道ウォーク」や「龍河洞暗やみ体験」など体験型観光の推進が図られている。

高幡地域

シイラの加工食品の取組では、新商品の開発に取り組み、大ヒット商品も出ている。

また、四万十の栗の加工とカフェ機能を持った施設や農家レストランを併設した直販所の拡充整備が進み、4月のオープンを目指している。

地域を牽引する海洋堂ホビー館や満天の星の取組により新たな動きが始まり、本年度5件の地域アクションプランを追加した他、次年度さらに5件の追加を予定している。

観光面においても広域観光組織「高幡広域観光推進本部」を設立し、広域観光の推進に向けた体制が整うとともに、平成28年度の地域博覧会開催も計画された。

物部川地域

安芸地域

昨年のフランスでの食品見本市への出展やその後の商談を経て、本年度もヨーロッパ向けに、ユズの青果輸出を行った。

地産地消やものづくりの拠点として、東洋町の「海の駅」が完成して1月より営業を開始した。また、キラメッセ室戸の楽市で、施設拡張などの直販所の機能強化に向けて動き出しており、さらには、芸西村のかっぱ市と奈半利町で新たな加工施設の整備などの具体的な動きがあり、現在、関係者間で協議が進められている。

観光面では、平成26年度の完成を目指して、室戸ジオパークの拠点施設の整備に着手するとともに、安芸地域の観光力の向上を目指して平成27年度に開催する東部地域博覧会の基本計画が決定され、具体的な実施内容等について検討を進めている。

幡多地域

三原村のユズの産地化の取組が5年目を迎え、栽培面積の拡大が進むとともに加工品の新商品開発にも取り組んでいる。

新たに追加した洋ランのブランド化に向けた取組では、国内外で販促活動を実施した。

黒潮町では新たに「道の駅」を整備し、地域産品の販売や交流人口の拡大に取り組む拠点施設として、4月のオープンを目指している。

観光面では、地域一体となって取り組んだ「楽しまんと！はた博」により、入込客数を伸ばすとともに、イベントメニュー、体験メニューが造成され、また地域の連携強化も図られた。

高知市地域

自動車用竹製ハンドルの製造の取組では、生産の拡大に伴い、雇用が拡大したほか、竹素材を活かした新商品開発も始まっている。また、地元鮮魚を活用した食品の製造では、県の関係機関が連携して生産技術の習得や販売チャンネル紹介などの支援を行い、本格的な生産販売が始まった。

農業分野では、全国有数の産地であるユリや新高梨の販売促進・ブランド化に取り組んでいる。滞在型・体験型観光の推進では、着地型旅行商品の開発が順調に進んでおり、参加者数も増加している。

地産地消・地産外商（ブランド化、アンテナショップ）

完全天日塩の生産拡大と観光への活用

完全天日塩

【田野町】

H25の主な取組の内容

- ・塩づくり体験ハウスの整備(H24)
- ・商談会への参加
- ・ふるさと応援隊説明会での人材発掘

H25の主な成果

- ・製塩ハウス新設(1棟)による生産拡充
- ・体験者や見学者等の本格的な受入(H25.9月～H26.3月(見込) 509人)
- ・就業者(ふるさと応援隊4名)確保

今後の方向性

- ・新規就業者の確保
- ・観光商品化



中土佐町地域ブランドの創出と販売促進

【中土佐町】

ぴんぴ (スラリーアイス活用)

H25の主な取組の内容

- ・ブランド商標登録
- ・「ぴんぴ」ブランドとして、鯉とメジカの販売開始
- ・水産加工施設の整備

H25の主な成果

- ・ぴんぴメジカの販売16店舗
- ・「ぴんぴ鯉のたたきセット」を202セット販売(H26.2月末)
- ・第2ブランド「上々」の立ち上げ

今後の方向性

- ・スラリーアイスを活用した高鮮度の鯉の安定供給体制の確立と認知度の向上



ユズを中心とした中山間振興

ユズ

【北川村】

H25の主な取組の内容

- ・搾汁設備の導入(H21・H24、JA土佐あき北川支所)
- ・フランス食品見本市への出展、ヨーロッパ20カ国への青果輸出

H25の主な成果

- ・青果出荷受入量の拡大(JA土佐あき、H24:370t → H25:398t)
- ・フランス等ヨーロッパ諸国に約3トンの青果を輸出
- ・高知県産柚子の知名度向上

今後の方向性

- ・青果輸出の拡大
- ・新規市場の拡大



ナシ産地の振興とブランド強化

新高梨

【高知市】

H25の主な取組の内容

- ・「まるはり」の商標登録(H24)
- ・「まるはり」デザインの出荷用段ボール、販促グッズの活用
- ・鳥獣害対策の実施

H25の主な成果

- ・知名度(ブランド力)の向上
- ・鳥獣被害の軽減(カラス被害:前年比23%減少)

今後の方向性

- ・新規市場の拡大
- ・協同出荷組織の拡大



洋ランのブランド確立・流通促進事業

洋ランの販売促進

【宿毛市】

H25の主な取組の内容

- ・洋ラン集出荷施設の整備
- ・販売促進の強化
- ・蘭遊六志会のイベント参加

H25の主な成果

- ・蘭遊六志会でセット商品販売
- ・新たな販売先の開拓

今後の方向性

- ・新商品の提案
- ・新たな市場の開拓



「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組

ごめんケンカシャモ

【南国市】

H25の主な取組の内容

- ・シャモ肉販売先の開拓
- ・シャモスキヤキセットの販売開始

H25の主な成果

- ・シャモ肉取り扱い店舗等
H24 29店舗 → H25 46店舗
- ・シャモ肉販売
H24 約3,269kg → H25 約4,119kg
(2月末現在)
(前年同期比 137%)

今後の方向性

- ・高知農業高校との連携強化
- ・ギフト向け等新商品の開発



土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興

【本山町、大豊町、土佐町】

土佐あかうしの生産基地

H25の主な取組の内容

- ・畜舎整備工事開始
- ・繁殖雌牛の導入
- ・繁殖活動の開始

H25の主な成果

- ・繁殖雌牛導入数:9頭
- ・繁殖開始:20頭
- ・子牛の分娩:1頭

今後の方向性

- ・繁殖雌牛及び肥育牛の増
- ・繁殖から肥育までの一貫した生産管理の徹底
- ・6次産業化に向けた取組



海の駅を拠点とした地域振興

「海の駅」東洋町

【東洋町】

H25の主な取組の内容

- ・地域特産物の販売、加工品の開発
- ・地域の観光情報等の発信
- ・海の駅の整備 (H26.1.12オープン、木造平屋建267m²)

今後の方向性

- ・地元食材を使った新商品の開発・販売
- ・東部地域の直販所と連携した流通等の検討
- ・地域の観光情報の発信

H25の主な成果

- ・町直営施設スタッフ雇用9名 (町臨時職員)
- ・海の駅出展者 (H25,12現在) 約80者 (個人・事業者)
- ・新商品 1品 (「ポンカンソフトクリーム」) の販売開始



直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大

【南国市】

JA長岡「なの市」「なのカフェ」

H25の主な取組の内容

- ・直販所「あけぼの市」を移転した「なの市」と新設の飲食店「なのカフェ」の建築工事完了
- ・運営会社「(株)なの工房」設立

今後の方向性

- ・隣接する「ながおか温泉」と連携した誘客活動の展開
- ・出荷会員の増大

H25の主な成果

- ・飲食店等の新規スタッフの雇用10名 (H26.2月末現在) (正規1名、短期9名)
- ・出荷会員数
H24:99人 → H25:207人 (H26.2月末現在)



中心商店街でのアンテナショップの運営

【高知市】

土佐せれくとしよつぷ てんこす

H25の主な取組の内容

- ・県産品の新たな掘り起こし
- ・中心商店街の活性化のためのイベント等を実施

今後の方向性

- ・地域産品の積極的PR
- ・中心商店街への波及効果の発揮

H25の主な成果

- ・地域産品の掘り起こし: 新規取扱商品472品目、約4,552アイテムを登録
- ・クルーズ客船高知新港入港時の出張販売 (9回)



越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進

【越知町】

観光物産館「おち駅」

H25の主な取組の内容

- ・観光物産館「おち駅」を拠点にした地場産品の販売促進と体験型観光の推進

今後の方向性

- ・直販市の販売促進、観光情報発信の充実

H25の主な成果

- ・直販市の売上高 59百万円 (H24) → 62百万円 (H25見込)
- ・カヌー・ラフティング利用者数 812人 (H24) → 1,838人 (H25)



津野町地産地消・外商販売戦略

【津野町】

津野町アンテナショップ「満天の星」

H25の主な取組の内容

- ・おめざフェアーなど各種イベントでの販売
- ・高野地区への集荷施設の整備

今後の方向性

- ・外商の推進
- ・加工場等への供給体制整備

H25の主な成果

- ・売上高 178百万円 (H25.4月～H26.2月)
- ・「高知家の食卓」県民総選挙で高知市内上位25店舗にランクイン



佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進

【黒潮町】

道の駅「なぶら土佐佐賀」

H25の主な取組の内容

- ・道の駅の整備
- ・道の駅を運営する新法人「(株)なぶら土佐佐賀」の設立
- ・H26.4.14オープン

今後の方向性

- ・地域産品の販売促進
- ・幡多地域の東の玄関口として、交流人口の拡大に向けた各種情報発信

H25の主な成果

- ・道の駅スタッフ雇用19名 (正規5名、フルタイマー5名、パート9名)



地産地消・地産外商 (農産加工)

香美市ブランドの確立・特産品づくり

【香美市】

ユズ皮を活用した特産品づくり

H25の主な取組の内容

- ・ユズ皮にこだわった商品3品目の販売促進活動
- ・「しおゆずマーマレード」、「しおゆずおかず」(佃煮)、「しおゆずぴーる」(ピール)のe-コマース「高知家のえいもん屋」での発売に向けた準備

H25の主な成果

- ・県ふるさと寄付金記念品として採用
- ・売上額 H24 1,810千円 → H25 1,668千円 (2月末現在)

今後の方向性

- ・ユズ皮の買い取りによるゆず農家の所得向上
- ・「奥ものべブランド」の確立



春野地区の農産物(トマト等)の
付加価値向上 【高知市】
**トマト・ショウガの
加工品**

H25の主な取組の内容

- ・新商品の開発
- ・加工用野菜の栽培
- ・商談会・見本市等への出展

H25の主な成果

- ・普及価格帯の商品開発により、県外量販店の販路を開拓
- ・PB商品生産の拡大



今後の方向性

- ・新たな加工品開発
- ・販売ルートの拡大とブランド化
- ・加工用野菜の生産体制の整備

地域の食材を活かした包あん食品の
開発・製造・販売 【高知市】
包あん食品

H25の主な取組の内容

- ・製造設備の整備
- ・地域の農産物等を使った大福の製造
- ・自社ブランドの大福を商品化

H25の主な成果

- ・OEM生産発注元の拡大
(H24)6アイテム→(H25)10アイテム

今後の方向性

- ・新たな商品開発
- ・取引先の開拓



本川きじの販路の拡大と顧客ニーズ
に対応した商品開発 【いの町】
本川きじ

H25の主な取組の内容

- ・本川きじの販路拡大と、新商品の開発
- ・きじ肉の加工品開発

H25の主な成果

- ・首都圏、関西での新たな販路開拓

今後の方向性

- ・生産・販売体制の強化



大豊ゆとりファームを核として地域資源の活用により地域産
業を持続化させる取組 【大豊町】

碁石茶

H25の主な取組の内容

- ・イベント出展等による販促活動
- ・県外商談会での商談
- ・ティーバッグの商品化

今後の方向性

- ・茶葉や加工品の販路拡大
- ・固定客の確保・拡大



H25の主な成果

- ・新規取引先:20社

(株)フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進
【仁淀川町】

カット野菜等の販売拡大

H25の主な取組の内容

- ・1次産品を活用した商品づくり
による雇用の確保と売上増

今後の方向性

- ・経営計画に基づく販路拡大、
生産体制の整備

H25の主な成果

- ・社員55名
- ・売上高419百万円(H24)
→476百万円(H25見込)



葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大
【須崎市】

葉にんにくめた

H25の主な取組の内容

- ・製造設備等の整備(H26.3月)
- ・県外での展示商談会等への出展

H25の主な成果

- ・新規取引先 6社
- ・新規雇用6名(正規3名、短期3名)

今後の方向性

- ・新たな商品開発
- ・取引先の開拓



加工品販売による夜須地域の活性化
【香南市】

夜須のトレフルッタ

H25の主な取組の内容

- ・加工施設整備
- ・新商品の開発

今後の方向性

- ・主力商品の定着
- ・商品数の増加

H25の主な成果

- ・夜須のエメラルドメロン
や夜須のフルーツマト
などを使った新商品完
成(3品)
- ・加工スタッフの雇用
(1名)



地産地消・地産外商（林産加工）

大型製材工場の設置による地域材の利用の促進

【大豊町】

高知おおとよ製材

H25の主な取組の内容

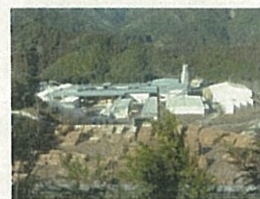
- ・製材工場の稼働

H25の主な成果

- ・雇用の創出:採用者数35人

今後の方向性

- ・地域内での原木供給体制の確立



土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 【東洋町、室戸市】

土佐備長炭

H25の主な取組の内容

- ・製炭施設(共同利用窯4基、東洋町備長炭生産組合)の整備と量産体制の強化
- ・備長炭生産者の育成

H25の主な成果

- ・研修生4名の受入(東洋町生産組合、室戸市振興会)
- ・研修終了後の地元就労4名

今後の方向性

- ・共同利用窯の増設
- ・量産体制の強化
- ・人材の育成



町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業

【大月町】

土佐備長炭

H25の主な取組の内容

- ・製炭窯の稼働率向上
- ・備長炭生産者の育成

H25の主な成果

- ・7基8名体制による生産量の増大
19.3トン(H24)→78トン(H25見込)
- ・生産者1名の育成

今後の方向性

- ・組織づくりと窯の設置
- ・生産量の増大



「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進 【梶原町・津野町】

原木シイタケ

H25の主な取組の内容

- ・産振アドバイザーの活用
- ・首都圏へのしいたけ料理の活用方法提案、試食商談会の実施

H25の主な成果

- ・乾しいたけの生産量の増産
4.8t(H24)→6.6t(H25)
- ・1億円産業を目指す組織の設立(億産会)

今後の方向性

- ・乾しいたけを使った料理の提案による販路拡大
- ・乾しいたけを使った加工品の検討



地産地消・地産外商（水産加工）

「弘化台ブランドの創出」地元鮮魚を活用した食品の製造・販売

【高知市】

弘化台ブランドの創出

H25の主な取組の内容

- ・地元鮮魚の加工販売
- ・加工施設の整備
- ・商品の開発販売(レンジdeクック)

H25の主な成果

- ・新規雇用15名

今後の方向性

- ・県内外への販路の拡大
- ・新商品の開発



うるめのブランド化 【土佐市】

宇佐の一本釣りうるめ

H25の主な取組の内容

- ・うるめの加工品開発
- ・商談会等への参加による販路拡大

H25の主な成果

- ・売上高35,151千円(H24)→44,687千円(H25.4月～H26.2月)

今後の方向性

- ・販路の拡大、新たな加工品開発



地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業

【土佐清水市】

サバ、宗田節

H25の主な取組の内容

- ・宗田節商品の加工機械の整備
- ・商品カタログの作成、発送

H25の主な成果

- ・NIKKEIプラス1(取り寄せ魚介丼)で「土佐の清水さば漁師漬」が全国1位を獲得し、売上額が大幅アップ(売上額7,000千円(H24)→20,500千円(H25.4月～1月))
- ・宗田ダシドレッシングシリーズの売れ行き好調

今後の方向性

- ・新商品の開発・販路開拓
- ・土佐清水市商品の販売拠点に向けた体制整備



水産加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上

シラス

【安芸市】

H25の主な取組の内容

- ・最新式の設備を導入した加工施設の整備
- ・アドバイザーの活用による商品開発
- ・シラスの飲食施設のオープン

今後の方向性

- ・地元漁業者との連携による生産拡大
- ・営業活動の強化、新商品の開発

H25の主な成果

- ・首都圏での販路先の確保(東京築地市場)



シイラ加工食品の生産拡大

かにつちよ竹輪

【四万十町】

H25の主な取組の内容

- ・かにつちよ竹輪の首都圏量販店での販売
- ・磯辺揚の首都圏での販売

今後の方向性

- ・新商品の開発と販路開拓
- ・競合他社製品との差別化

H25の主な成果

- ・高知県地場産業大賞地場産業賞受賞
- ・連携事業者の経営安定



魅力のある観光

幅多広域における滞在型・体験型観光の推進

【幡多地域全域】

楽しまんと！はた博 (7月～12月)

H25の主な取組の内容

- ・オフィシャルイベント19イベント他各種イベントの開催
- ・各種体験プログラムの実行(54プログラム)

H25の主な成果

- ・観光施設等入込客数 1,466千人(対前年比116%)
- ・宿泊者数 119千人(対前年比104%)

今後の方向性

- ・はた博で造成した各種イベント、体験メニューのブラッシュアップ
- ・さらなる市町村の連携体制の強化



広域観光の取組の推進

【安芸地域全域】

安芸地域の広域観光の推進 (東部博)

H25の主な取組の内容

- ・地域博覧会の開催に向けての準備
- ・観光協会等の機能強化
- ・旅行商品づくり
- ・観光拠点等の磨きあげ
- ・ガイド人材の育成

今後の方向性

- ・地域博の具体化と準備
- ・広域観光組織の設立等

H25の主な成果

- ・地域博覧会開催の正式決定(11月)
- ・同基本計画の決定(2月)
- ・土佐旅セミナー参加、周遊プラン作成



「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進

【仁淀川地域全域(仁淀川地域観光協議会)】

仁淀川流域観光の推進

H25の主な取組の内容

- ・流域市町村等と連携した旅行商品の企画・セールス
- ・仁淀川流域の観光情報の発信

H25の主な成果

- ・協議会のセールスで実現したツアーの実施110本(H24)→130本(H25.4月～H26.2月)、参加者2,477人(H24)→3,244人(H25.4月～H26.2月)

今後の方向性

- ・観光資源の旅行商品化、継続したセールス活動
- ・「奇跡の清流仁淀川」ブランドを生かした観光・物販情報の発信
- ・協議会の推進体制の維持・充実



世界ジオパーク認証を活かした観光の振興

【室戸市】

室戸ジオパーク

H25の主な取組の内容

- ・ジオパーク拠点施設の整備着手(H27.3月竣工見込)
- ・ジオサイトの整備(段の谷山サイト トイレ設置)(とろむサイト たたき体験施設)
- ・ジオツアーのコース造成
- ・ジオガイドの養成

今後の方向性

- ・拠点施設の円滑な運営、ガイド養成、ジオツアー等の受入態勢強化

H25の主な成果

- ・ジオツアーの開催(5回開催、延べ72人参加)
- ・ガイド養成講座 9回開講(受講者:延べ268人)(ジオガイド実績、H24: 8,013人 → H25(見込): 7,000人)



わざわざ行こう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり 【四万十町】

海洋堂ホビー館

H25の主な取組の内容

- ・企画展、イベントの開催
- ・着ぐるみ活用した観光情報の発信
- ・繁忙期における交通渋滞緩和対策

H25の主な成果

- ・ホビー館来館者数 62,237人(H26.2月末現在)
- ・地元住民が運営する「谷小屋」「かっぱ茶屋」等の活動の活性化

今後の方向性

- ・地元事業者や観光資源との連携
- ・さらなる誘客に繋げるための新たなミュージアムの整備



観光事業から観光産業へ
～観光産業の振興～

【南国市】

体験観光等の推進

H25の主な取組の内容

- ・岡豊山さくらまつり、土佐の食-1グランプリ、長宗我部フェス、土佐のまほろば祭り等の集客イベントの開催
- ・ごめんな祭、なんこくへんろウォーク、南国フォトロゲイニング大会等の参加・体験型イベントの開催
- ・プロモーション活動:33社

H25の主な成果

- ・岡豊山さくらまつり、土佐の食-1グランプリ、長宗我部フェス、土佐のまほろば祭りでの入込客:計18,500人
- ・市観光協会を一般社団法人化

今後の方向性

- ・観光コンテンツの創出、磨き上げ、育成、ネットワーク化



体験観光等の旅行商品化と販売の
推進・地域の観光情報の発信

【香南市】

海から山から体験観光

H25の主な取組の内容

- ・土佐塩の道うおーく、第2回土佐塩の道トレイルランニングレースなどの催行
- ・映画「県庁おもてなし課」のロケ地マップ配布
- ・サンライズ・サンセットシーカヤックの商品化

H25の主な成果

- ・主催旅行 H24:7コース295名→H25:7コース257名参加(H26.2月末現在)



今後の方向性

- ・地域素材を使った旅行企画の多様化

「森の駅」を中心とした体験型観光
の推進

【香美市】

体験観光

H25の主な取組の内容

- ・いざなぎ流舞神楽観賞と体験の開催
- ・土佐塩の道うおーくの開催
- ・龍河洞内の照明をLED化
- ・龍河洞クリスマスキャンドルナイトにおいて高知工科大生による「Xmas洞内アートギャラリー」の実施
- ・べふ峡温泉が新たに造成した体験メニュー:3種

H25の主な成果

- ・龍河洞クリスマスキャンドルナイト入洞者数
H24 956人 → H25 1,281人

今後の方向性

- ・新たな体験プログラムの造成や参加者の受け入れ体制の整備



近隣地域等との連携による滞在型・
体験型観光の推進

【高知市】

体験型旅行商品（とさ恋ツアー）

H25の主な取組の内容

- ・第2種旅行業免許を活用した新商品の開発
- ・ガイドブックの発行
- ・県下全域での旅行商品づくり

H25の主な成果

- ・利用客数2,620人(H24)
→3,041人(H25)

今後の方向性

- ・更なる旅行商品づくりと情報発信



屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と
地域の活性化

【日高村】

屋形船仁淀川

H25の主な取組の内容

- ・5月から3隻運航を開始
- ・運航1周年記念イベント開催
- ・屋形船船着場において能津地区の花火大会を開催

H25の主な成果

- ・増船 1隻(H24.5月)→3隻(H25.5月)
- ・乗船客数1,785人(H24)→3,133人(H25.4月～H26.2月)
- ・運航1周年記念イベントの乗船客数391人(5/3、4、5)

今後の方向性

- ・拠点施設整備の検討
- ・村内や仁淀川流域の観光資源との連携による集客力の向上



四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進
【四万十市】

41℃プロジェクト・サイクリング

H25の主な取組の内容

- ・41℃プロジェクトの始動(ゆるキャラ「しまっち」の着ぐるみ作成、アツイまちサミットの開催)
- ・各種サイクリングイベントの開催

H25の主な成果

- ・41円かき氷の販売などによる西土佐地区のにぎやかさの創出
- ・サイクリングイベントの定着、愛媛県との県境を越えた連携体制の構築

今後の方向性

- ・熊谷市、多治見市と連携した情報発信
- ・愛媛県と連携したサイクリングイベントの開催(H26.9.14)



嶺北地域の連携による交流人口の拡大 【嶺北地域全域】

県外都市部の大学との連携

H25の主な取組の内容

- ・大学と連携した旅行商品の磨き上げ
- ・県外大学と嶺北地域観光・交流推進協議会との連携協力に関する包括協定の締結(2校)

H25の主な成果

- ・県外都市部の3大学と連携した取組の実施(参加学生:37名(H26.3月末見込))

今後の方向性

- ・学生の企画・提案内容の実現化に向けた協働した取組
- ・都市部の大学と地域の交流の継続・拡大
- ・協働する大学・専門学校等の拡大



歴史的風致維持向上計画の推進 【佐川町】

今後の方向性

佐川町上町地区の歴史的風致の保存と活用

H25の主な取組の内容

- ・牧野富太郎ふるさと館、浜口邸の整備
- ・住民参加によるご当地弁当、土産品の開発
- ・観光ガイド(NPO法人佐川くろがねの会)によるまち歩き

H25の主な成果

- ・まち歩き観光ガイドの利用者1,339人(H24)→2,643人(H25.4月～H26.2月)
- ・ひな祭りの来場者 約1,000人(H24)→1,200人(H25)
- ・地域イベント「酒蔵ロード劇場」の来場者 約2,000人(H24)→約3,000人(H25)
- ・住民参加による牧野博士ゆかりの植物での牧野公園等の整備



- ・整備した施設を活用した住民・観光客の学びの場づくり
- ・住民参加の町づくり活動の推進

その他の特徴的な展開

JA出資型法人を核とする地域活性化の取組 【土佐町】

農業の担い手育成

H25の主な取組の内容

- ・大阪圏の自治体及び企業等との連携による農業の担い手の育成(インターンシップ研修)
- ・新規就農研修支援事業による研修実施



H25の主な成果

- ・都市部からのインターンシップ研修受入:16名
- ・新規就農研修支援事業による研修生:1名

今後の方向性

- ・インターンシップ研修終了後の就農支援の展開
- ・大阪圏自治体との連携強化

三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築
ユズ産地化と農業後継者育成 【三原村】

H25の主な取組の内容

- ・新たな販路の開拓
- ・宿泊研修施設の整備
- ・新たな商品(ゆうべし)の製造開始

今後の方向性

- ・農業後継者の育成
- ・集落活動センターとの連携



H25の主な成果

- ・新たな販路の開拓
- ・ユズの栽培面積35.0ha(公社16.6ha)

県産竹材を用いた新規分野への製品展開 【高知市】

自動車用竹ハンドル

H25の主な取組の内容

- ・竹製自動車ハンドルの素材の製造
- ・竹シート、竹ブラシ等の製造

今後の方向性

- ・竹材の安定確保
- ・新製品の研究・開発

H25の主な成果

- ・新規雇用8名
- ・須崎地区森林組合等との連携による竹材確保の仕組みの構築



地域内高校と連携した将来の担い手育成に関する取組
模擬会社化を目指す嶺北高校
Reihoku Youth Neighborsの活動 【嶺北地域全域】

H25の主な取組の内容

- ・(株)れいほく未来と連携した新商品開発

今後の方向性

- ・地域を巻き込んだ活動への展開
- ・卒業生を含む若者の受け皿となる会社化の取組

H25の主な成果

- ・新商品の企画・提案(6品目、うち4品目が25年度内に商品化)
- ・高校生の地域活性化への貢献意欲の向上



嶺北地域の連携による移住促進の取組

移住・定住人口の拡大

【嶺北地域全域】

H25の主な取組の内容

- ・れいほく田舎暮らしネットワークと4町村が連携した移住促進の取り組みを展開
- ・移住相談・空き家調査の実施
- ・移住体験ツアーの実施

今後の方向性

- ・継続した取組体制の確立
- ・移住希望者のニーズに沿った情報発信

H25の主な成果

- ・移住相談件数:177件(H26.2月末現在:延べ数)
- ・移住実績:55名(H24)→77名(H26.2月末現在)



滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり

【四万十町】

クラインガルテン

H25の主な取組の内容

- ・施設内、町内イベント等での住民との交流促進
- ・移住相談窓口やお試し滞在施設の運営

今後の方向性

- ・移住定住促進のしくみづくり
- ・相談窓口体制の充実

H25の主な成果

- ・施設稼働率 97.4%(H26.2月末現在)
- ・移住相談窓口への相談件数 114件(H25.2月末)→120件(H26.2月末現在)
- ・移住者数 8組17名(H25.2月末)→16組33名(H26.2月末現在)



1 地域アクションプランの第4四半期の実施状況（総括）

(1) 総評

農業分野のナスに関しては、地域園芸戦略推進会議や現地検討会、土佐鷹栽培者全戸巡回等を通じて系統出荷率の向上や作付面積の増加等に向けた取組みを行った。ユズに関しては、新植・改植を推進する勉強会や講習会の開催、果汁等の安定供給と販路の開拓などに向けた協議等を行うなか、昨年度から取り組んでいるユズ青果の輸出は、9月から11月までの間に約3トンフランスなどヨーロッパ向けに出荷した。

水産分野では、昨年3月末に完成したシラス加工施設の本格稼働が始まり、県内の量販店やホテルのほか、県外市場への出荷が始まっている。一方、課題の原魚の確保は、安芸地域の水揚量が低調なため、県内他産地や県外産地からの買い付けに向けた取組を進めている。

また、室戸市に水産加工施設を整備した事業者では、遠洋マグロ延縄船上で高鮮度処理したピンナガ（土佐おとめマグロ）の販路を拡大する取組が行われている。

林業分野に関しては、特用林産物の土佐備長炭の製造・販売の拡大に向けて、産業振興総合補助金を活用した製炭窯の増設や後継者の育成、生産組合の法人化などに取り組んでいる。

商工業分野では、東洋町の海の駅が1月12日にオープンし、地域の農産物や水産物等の販売のほか、特産品のポンカンを使ったソフトクリームなど、地域食材を使った飲食の提供が行われている。

また、田野町の完全天日塩を活用した新たな商品づくりに向けて、地元の事業者が取組をはじめるとともに、農産物への活用の可能性について生産者を中心に検討が進められている。

中山間地域を中心に生産される1次産品や加工品の重要な販売拠点であるとともに、地産地消・地産外商の拠点でもある直販所や道の駅の機能を強化するため、これらの直販所等に対して実施した聞き取りによるアンケート調査をもとに、新たな直販所間での連携やネットワークづくりに向けた取組を進めることとしている。

観光分野では、平成27年4月から安芸地域9市町村で開催を予定している東部地域博覧会は、推進組織である「高知県東部地域博覧会推進協議会」の第2回総会が2月に開催され、同博覧会の開催の意義や目的、集客目標等を定めた基本計画が承認された。今後は、博覧会のパビリオンや関連イベント、体験プログラムなどの具体的な運営内容などの検討を進める予定である。

なお、個別の取組については、室戸ジオパーク拠点施設については、平成27年3月の竣工に向けて12月に本体改修工事に着手し、今後、施設内の展示物や外溝工事の整備を行う予定である。その他にも、奈半利町にある藤村製糸や岩崎弥太郎生家などの観光資源化を目指して、現在、所有者、関係者及び行政とで具体的な協議を進めている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>二つの日本一を有する産地機能の維持・強化</p> <p>■No.1 ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進 (室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>安芸市の系統出荷率: 60%</p> <p>土佐鷹作付面積: 80ha</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>安芸市の系統出荷率: 58%</p> <p>土佐鷹作付面積: 40ha</p> <p>[取組状況]</p> <p>○系統率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域園芸戦略推進会議まとまりづくりチーム会等の開催 (8回) ・各地区反省会、現地検討会の開催 (10ヶ所、延べ50人へ情報提供) ・安芸出荷場での営農相談の実施 (9回、延べ383人へ情報提供)、臨時地区会の開催 (3/7、70人) ・地域園芸戦略推進会議の開催 (産地振興方策の決定) <p>○土佐鷹の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐鷹普及推進協議会及び総会での協議・検討 (27園芸年度の推進目標面積40haを決定) ・土佐鷹普及推進協議会合同研修会 (10月)、作業部会 (12月)、競合産地調査 (1/27)、地区別推進会 (3地区、3/3、2/20、2/27) ・土佐鷹生産者大会の開催 (2月)、 ・品目別検討会を開催し (1/20、3/11) CO2 施用実証等中間とりまとめ ・JAと県とが連携し農家を個別に巡回指導 (5、9月) (2/四半期現在の栽培面積26.9ha = 前年度並み) ・園芸研究幹事会等の開催 (2回) ・消費拡大連絡協議会設立 (10/4)、準備委員会 (6、7、8、9月)、 ・消費拡大連絡協議会支部の設立 (中芸10/23、芸西11/18、芸東1/15) ・販売大会 (高知県なすフェア in 横浜 2/7~9、同神戸 2/14~16、同仙台 3/6~8) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐鷹の更なる推進 (特に安芸集出荷場管内のまとまりの形成) ⇒地域園芸戦略会議等を通じた系統率の向上
<p>■No.2 ユズを中心とした中山間振興 (室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>青果出荷受入量: 400t</p> <p>加工仕向け量: 4,670t</p> <p>加工用果皮の出来高量: 安芸1,000t、北川80t</p> <p>加工品販売 ユズ茶: 160百万円</p> <p>化粧品: 52百万円</p> <p>ポン酢他ユズ加工品: 2,070百万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>青果出荷受入量: 400t</p> <p>加工仕向け量: 4,500t</p> <p>加工用果皮の出来高量: 安芸840t、北川60t</p> <p>加工品販売 ユズ茶: 160百万円</p> <p>化粧品: 52百万円</p> <p>ポン酢他ユズ加工品: 2,070百万円</p>

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新植改植の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・講習会 (適期防除等、5回)、勉強会 (適期防除、カラーリング出荷拡大、加工用果皮出荷拡大、延べ37回 940人の参加) の実施 ・母樹園の果実品質調査 (2回)、ユズ肥大等調査 (4回) ○将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・連絡会等での課題抽出と共有化、活動計画の検討 (北川村 12回、馬路村 1回) ・検討組織立上げに向けた調整 (地域座談会等の開催、準備会の設置) ○ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 <ul style="list-style-type: none"> ・県版 HACCP 取得に係る審査申請 (2月) (JA 土佐あき) ・加工用果皮出荷拡大・品質ワンランクアップ勉強会等開催 (延 30回) ・EU向け青果輸出 (準備・調整支援 13回、EU向け9月出荷 400kg、10~11月 2.5t) ・海外等でのPR実施 (賞味会: フランス、ベルギー、ドイツ、10月~11月) ・JA 土佐あき販路拡大 (商談会等県外出展 3回、市場関係者招へい 10/1、スイーツコンテスト開催 12/14、ユズ収穫祭 10/20) ・JA 馬路村販路拡大 (化粧品試供品 1000セット提供、関西での有機果汁加工品販売、ユズはじまる祭り 11/2、3、商談会 (東京) 参加) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ果汁の販売強化、ユズ商品の販売拡大 ⇒取組の着実な継続
<p>木質バイオマス活用の促進</p> <p>■No. 8 木質バイオマス活用の促進 (安芸市、芸西村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・(有)安岡重機 ・高知バイオマスファーム ・高知東部森林組合 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ペレット生産: 1,500t/年 ボイラー設置: 100基</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ペレット生産: 700t/年 ボイラー設置: 102基</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペレット製造ラインの再整備後の稼働状況の検証 (生産量: 4~7月 183t) ・ペレット製造ラインの補修用部品の確保 (生産目標 1,000t/年=83t/月に対し 60t/月を確認) ・園芸用ペレットボイラー導入に係る補助事業の活用 (園芸用ボイラー 30台 (安芸 8、芸西 10+12 (H24 繰越)) ・木質ペレットボイラーの設置完了 (11月) ・ペレット燃料製造量 (安岡重機) 約 660t (H25年度) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域需要に対応するペレット製造ラインの拡充や安定供給 ⇒設備の補修や増強等による生産の能力の向上など ・量産時の燃料用原木の安定供給 ⇒林業事業者からの直接調達量の増加を検討

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>水産物のブランド化への取組</p> <p>■No. 10 キンメダイのブランド化に向けた取組（室戸市、東洋町、奈半利町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸東水産業改良普及協議会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>魚価単価： 1,200 円/kg</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>室戸市場のキンメダイ取扱量： 2.3%、1,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協関係者等に対する試食会の実施（3回） ・キンメダイのフィレの流通の検討（冷凍からチルド状態へ） ・大手量販店との商談会の開催 ・キンメダイの試食品（冷凍フィレ）提供（東京フードジョー、関西居酒屋：高評価を得る） ・水産物ブランド化推進事業補助金を活用した販促・PR活動（8月：東京シーフードジョー、2月：シーフードショー大阪、3月：フーデックスジャパン） ・PRグッズの作成（11月） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H24の開発商品の改良 <ul style="list-style-type: none"> ⇒取引先や大手量販店などからのアドバイスに対応 ・冷凍加工品の開発と地元消費の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ⇒地元調理師会と連携したPR活動等の継続
<p>No. 11 水産加工の促進と販路の拡大（室戸市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)タカシン水産 ・高知県漁協 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>加工品販売額： 12,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>加工品販売額： 8,600 万円</p> <p>取引件数の継続： 県外 10 件、県内 12 件</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工事業者のFBC フード・ビジネス・クリエイターの受講 ・新商品「おとめまぐろ」を大手回転ずしと取引契約（17t） ・工業技術センターによる工場の衛生管理状況の確認と衛生講習の実施 ・水揚量が少ない低価格魚（エチオピア）を地元事業者が加工し販売する準備に着手 ・近海マグロ延縄船上で高鮮度処理したピンナガ（おとめマグロ）の比較試験、脂肪含有量船上測定の実施 ・おとめマグロを東京フードショー（8月）、フーデックスジャパン（3月）へ出展 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大口で安定的な取引先の確保 <ul style="list-style-type: none"> ⇒既存商品の改善、新商品の開発への取組と営業活動の継続

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>■No. 12 加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上（安芸市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業 ・安芸漁協 ・安芸おじゃ娘 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>水揚げ額： 201,000 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>水揚げ額： 96,000 千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚確保に向けた県外漁協等の情報収集（須崎市、香川、徳島、兵庫） ・事業者（安芸水産）から状況等の聞き取り（5/13～2/18、月1回） ・原魚購入（4～1月：約110t 39百万円、うち安芸以外約66t 19百万円） ・安芸市外からの原魚調達（徳島県、須崎市） ・高知県地域産品商談会参加（安芸水産）（5/28） ・シラスの消費拡大、販売PR（8/1、安芸シラス食堂のオープン） ・お歳暮ギフト商品の販売開始 ・産振アドバイザーの助言による商品開発（10/24） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工原魚の確保に向けた取組 ⇒他県の情報収集と原魚購入の検討 ・商品力、販売力の強化と新たな販路確立 ⇒商談会、見本市等への参加とPR活動の継続
<p>地域の1次産品等を活用した商品づくりと販路拡大</p> <p>■No. 3 ポンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大（東洋町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲浦の果樹仲間 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>商品アイテム数： 4品</p> <p>濃縮ジュース販売量： 5,000本</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>商品アイテム数： 3品</p> <p>濃縮ジュース販売量： 3,000本</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売戦略の策定（6月） ・関西の業務用酒販業者への営業活動（6/17：大阪4社、11月：守口市） ・「海の駅」の飲食メニューへの活用検討（8月～、運営協議会） ・販路拡大の検討（地域広報誌掲載、県産品eコマースへの出店準備） ・県産品eコマースサイトへの申込（11月） ・ポンカンカクテルのレシピ作成（1月） ・ポンカンソフトクリーム用果汁（無糖、殺菌処理20アルミパウチ）を「海の駅」へ販売開始（1月） ・新規取引先の拡大（岡山県1件、大阪府2件、県内1件） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売戦略に基づいた販路開拓 ⇒ターゲットに対する営業活動の促進 ・新商品の開発と生産体制の構築 ⇒海の駅運営と連携した新商品の検討

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 4 「安田 (あんた) の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発 (安田町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安田町 ・生産者 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>売上高: 100 百万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>売上高: 25 百万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知龍馬空港でのキャンペーンの展開 (4/1、4/21) ・県外百貨店での高知フェアに出展 (銀座三越 4月、大阪高島屋 5月) ・まるごと高知の報告会・商談会へ参加 (6/13) ・県内外での販売促進活動 (松山市サニーマート 7月、三翠園、ふるさと祭り 10月、サニーフェスタ、ニッポン全国物産展 11月、町イチ村イチ 2014 東京国際フォーラム 1月、高知県観光びらき、イオン高知、サニーマート 2月、ハピもぐ海山フェスタ、中芸観光びらき 3月) ・オープン 1 周年記念イベント (6/22) ・年間製造量 59,600 個、月平均製造量 5,418 個/月 (4月 11,600 個、5月 4,100 個、6月 4,200 個、7月 4,100 個、8月 7,600 個、9月 4,000 個、10月 3,600、11月 7,800 個、12月 4,000 個、1月 4,400 個、2月 4,200 個、累計 59,600 個) ・商品の納入先実績 (高知龍馬空港、サニーマート、てんこす、高知市の商店、沖縄県宮古市) ・ニッポン全国物産展おやつランキング入賞 (11月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入した製造機械での本格生産に向けた大口の販路開拓 ⇒地産外商公社等と連携した首都圏での商談の実施 ・原材料の安定確保に向けた仕組みづくり ⇒安芸地域全体を視野に入れた原材料の選定と調達方法の検討
<p>■No. 5 エディブルフラワーを活用した新商品の開発と販路の拡大 (芸西村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 香南くろしお園 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お花ソルト」の H24 年度末時点の販売店舗数 (20 店舗) ・新たに京都の農業法人と取引開始 (6月～) ・ドライ商品の販売開始 (かっぱ市 12月～) ・旅行エージェントのモニターツアー受入 (2/21) ・新商品の試作 (ドライトマト) ・イベント等への出張販売 (3/8、9、高知駅前ハピもぐ海山フェスタ) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お花ソルト」「お花オイル」の知名度アップと販路拡大 ⇒現在の製造・販売体制の継続

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>■No. 6 白下糖の生産の拡大と新商品の開発（芸西村）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸西村 ・芸西村製糖組合 ・生産者グループ 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>サトウキビ収穫量： 40t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>サトウキビ収穫量： 38t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産拡大のため検討会を実施（製糖組合、芸西村、県） ・生産拡大のためサトウキビ栽培地の現況確認（5月） 生産者：18戸、作付面積：7反 ・脱葉機の導入決定 ・製糖製品の販売先等の検討（かつば市、芸西村、県） ・村内生産者を招いて脱葉機の見学会を開催（11月） ・保冷設備の現地調査（四万十市しまんと美野里、1月） ・体験メニューの検討（製糖実験、2/19） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の増加対策 ⇒生産者等への働きかけ ・新商品の開発に向けた検討 ⇒かつば市との連携による新たな加工品の検討
<p>No. 14 酒粕等を活用した新商品の開発と販路の拡大（田野町、安田町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国部品㈱中芸工場 ・民間企業（予定） 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額： 42,000千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額： 16,200千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外での物産展への出展（4/24～6/25、5回） ・県内での物産展等への出展（4/27～11/23、6回） ・県内商談会、支援制度の紹介 ・急速冷凍機、食器消毒保管庫の導入（5月） ・新商品の開発と販売（8月～：しょうが菓子「濱口雄幸の爪の垢」、11月～：「蔵人の菓」新味（チョコ、しょうが）） ・商品展示販売・PR（5月～6月：産振シンポジウム、3月：東海岸ハピもぐ海山フェスタ、中芸観光ほげな祭） ・まるごと高知で販売開始：塩シャーベット（5月～）、「爪の垢」（12月～） ・新たな取引先への販売開始（1月：大阪・関西を中心に1事業者5店舗、2月：県内スリーエフ18店舗） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採算ベースを確保するための売上増加やコスト低減対策 ⇒県内量販店等の取引先の確保に向けた営業活動 ・酒の実ヴィネグレットソースの製造事業者廃業（H24.12.28） ⇒中芸地区商工会と連携して、事業継承者の確保

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 24 海の駅を拠点とした地域振興 (東洋町)</p> <p>《事業主体》 ・東洋町</p>	<p>[目標 (H27)] 海の駅来場者数： 180,000 人</p> <p>[H25 到達点] 新施設の早期竣工</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海の駅」の整備 (7/3 建築着手、12/15 施設落成式) ・海の駅運営協議会の開催 (8/28、9/13、10/28、11/28、12/28、2/27) ・出展者の募集 (9/26～) ・従業員の新規雇用 9 名 (12/19) ・直販所アドバイザー制度を活用した運営スタッフ接遇研修 2 回 (1 月、3 月) ・東洋町直営で運営開始 (1/12～) (2 月末時点の実績：来場者延べ 21,451 人、売上額 19,236 千円) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑な施設運営と施設で提供する飲食メニューや加工品作り ⇒運営協議会を立上げ、検討・協議に着手
<p>広域的に連携した観光の推進</p> <p>■No. 19 安芸地域における広域観光の振興 (安芸地域全域)</p> <p>《事業主体》 ・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者</p>	<p>[目標 (H27)] 圏内主要施設訪問者数： 140,000 人 圏内宿泊者数： 150,000 人</p> <p>[H25 到達点] 圏内主要施設訪問者数： 125,000 人 圏内宿泊者数： 140,000 人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部地域博基本計画策定委員会での協議 (4/24、6/7、7/4、7/23、8/20、9/12、10/7、11/7、11/27、2/4、2/27) ・基本計画の決定 (2/25) ・東部地域博推進協議会の設置 (準備会 7/30、10/8、11/14、安芸広域幹事会 10/22) ・東部地域博推進協議会総会 (第 1 回設立総会 11/22、第 2 回 2/25) ・東部地域博推進協議会企画運営部会 (1/9、2/4、2/27) ・県広域観光推進事業補助申請 (6/7、交付決定) ・東部地域博基本計画策定委託を観光拠点等整備事業費補助金申請 (6/10、交付決定) ・県観光人材研修の実施 (6/13、6/14、6/28、11/25～26) ・県の観光アドバイザーによる研修会の実施 (5/27～29、7/17、19、9/26、27、10/24) ・教育旅行誘致用の広域パンフレット作成 (1 月) ・教育旅行誘致セールス活動 (関西旅行会社、1/23～24) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的な旅行商品の造成、体験メニューの充実 ⇒安芸広域全体での体験メニューの更なる掘り起こしと磨き上げ ・地域博覧会の開催に向けた準備等 ⇒推進体制の構築と具体的な内容の検討

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>■No. 20 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興（室戸市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市 ・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市観光協会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ジオパークガイド登録者数： 40 人 来訪者数： 70,000 人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ジオパークガイド登録者数： 50 人 来訪者数： 70,000 人</p> <p>[取組状況]</p> <p>(情報発信・国際交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもサマースクールの実施（募集 6/15～7/17、実施 8/8, 9） ・リョーマの休日エリアキャンペーン（スペシャルジオツアー11/23、参加 16 人、12/14 は不催行） ・アジア太平洋会議（済州島）参加（5 名、9/9～11） ・ジオパーク全国大会参加（隠岐大会：10/15～18） ・野柳（台湾）ジオパーク訪問（2/13～16） ・ジオツアーの実施（おさんぽツアー11/10、11/24、参加者延 26 人、リョーマの休日スペシャルジオツアー 11/23、16 人参加、ジオツアーリズム推進チーム主催 1/27、2/27、延べ 30 人参加） ・ジオガイド養成（ガイド講座 9 回開講、受講者延べ 268 人） <p>(拠点施設整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計委託、県観光拠点等整備事業補助金交付決定（6/24） ・建築主体工事、県観光拠点等整備事業補助金交付決定（12/12） ・基本設計委託契約（～10/31）、実施設計委託契約（～12/31） ・建築主体工事着手（工期：12/20～3/26、工期延長～7/31） <p>(サイト整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元協議（1 回） ・「海の駅とろむの日（10 月 6 日）」記念イベントに向け協議（8/13） ・吉良川サイトまち並み拠点施設外溝工事（9 月～12 月） ・段ノ谷山サイトトイレ整備設計観光拠点等整備補助金申請（12/6） ・段ノ谷山サイトトイレ整備（工期：1/31～3/20） ・とろむサイトたたき体験施設整備観光拠点等整備補助金申請（8/27） ・とろむサイトたたき体験施設整備（1 月） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド育成とジオツアーの造成 ⇒ガイド養成講座の周知とツアー関係者との連携 ・拠点施設整備 ⇒多くの参加者を集めるための市民への周知と意見収集

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 22 岩崎弥太郎と地域食材を活用した観光の振興(安芸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市 ・生産団体・グループ ・民間事業者・加工業者 ・安芸市観光協会 ・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会 ・安芸「釜あげちりめん井」楽会 ・安芸市観光ボランティアガイドの会 ・JA土佐あき婦人部 ・入河内大根のこそう会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸釜あげちりめん井を出展しPR活動を実施 (3/31~5/6 内原野つつじまつり、4/7 食1グランプリ、5/18・19 グルメフェスタまんのう、グルメフェスタ椿原9/22、登り窯フェスタ11/3、ものづくり総合技術展11/21~23、どんぶり王国土佐づくり10/5~6、土佐のおさかな祭り1/19、土佐のおきやく3/1~2) ・安芸シラス食堂オープン(8/1) ・まるごと高知での商談会、テストマーケティングの参加(まる弥カフェ8/24、25、9/9、11/15) ・PRキャラバンへ参加(6月:福岡・広島・大阪・岡山、7月:松山・高松) ・ボランティアガイド養成(安芸市観光学、7/21~8/19、6回、28名) ・安芸釜あげちりめん井楽会検討会の開催(4/16、総会6/6、7/24、8/12、8/30、10/7、12/2、1/17、2/19、3/17) ・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会総会の開催(5/28) ・入河内大根のこそう会総会(5/23) ・商い甲子園の開催(8/10)、商い甲子園実行委員会(2/4、3/4) ・四国じゃこサミットの開催(10/26、27) ・じゃこサミット実行委員会(7/12、7/24、8/12、8/30、9/11、9/25、10/7、12/2、1/17、2/19、3/17) ・レシピコンテストの実施(12/1) ・安芸キャンドルナイト2013(12/7) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市の観光振興に向けた推進母体の育成 ⇒安芸市観光協会の機能の見直し ・岩崎弥太郎生家に関する観光新商品開発 ⇒現状把握と有望素材の磨き上げ
<p>■No. 26 中芸地区における広域観光の推進(奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸広域連合 ・中芸観光協議会 ・中芸商工会 ・観光関連事業者等 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部地域博基本計画策定検討委員会への参画(4/24、6/7) ・観光案内や地域観光キャンペーンの実施(4/26・27 イオンモール、5/3~6 田野駅屋臨時案内所) ・中芸観光協議会総会(5/30) ・土佐旅セミナー研修受講(6/13・14、6/26) ・中芸食に関する検討会の開催(6/27、7/18、10/16) ・中芸観光ガイドスキルアップ研修会の検討(8/5、12/17) ・中芸地区ファンづくり検討会(8/5)、黒笹慈幾氏の講演会(8/27)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 27 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した 交流人口の拡大(奈半利町、田野町、 安田町、北川村、馬路村)</p> <p>《事業主体》 ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用す る会</p>	<p>・奈半利川支流野川川でのアマゴ釣体験(11/1～) ・野根山街道エコモニターツアーの実施(12/1) ・地域グルメ開発に関する講演会(12/20、講師：ヒロ中田氏) ・中芸観光びらき「ほげな祭」検討会(1/8、1/21、1/29、2/12、3/6) ・中芸観光びらき「ほげな祭」の開催(会場：奈半利港周辺、3/21) ・講習会・研修会の実施(おもてなし講座2/5、ガイド等研修会2/2、 野根山街道の歴史講座2/9) ・モニターツアーの実施(3/8、モネの庭での星空観察会)</p> <p>[課題と今後の対応] ・地域住民、事業者、行政が協働する観光振興の展開 ⇒中芸観光ビジョンの実現にむけた関係者の協働意識の醸成</p> <p>[目標(H27)] ツアー客数：1,500人 H25 到達点 ツアー客数：1,300人</p> <p>[取組状況] ・役員会の開催(4/5、5/8、6/17、8/28、10/21、12/10、3/10) ・隧道カフェの開催(4/19、7/15) ・林鉄講演会の開催(9/27、安芸市シルバー短大、1/24) ・支線調査報告会及び通常総会の開催(5/22) ・現況調査及び活用策づくりに係る文化庁の補助事業導入に向けた関係 者間での協議 ・旧魚梁瀬森林鉄道遺産保存活用計画策定協議会(発足式 2/10) ・森林鉄道ツアー受入(4月～3月見込：38件 延べ822人)</p> <p>[課題と今後の対応] ・森林鉄道遺産の保存・管理・活用 ⇒国、県との協力体制を構築</p>
<p>■No. 30 世界に2つの「モネの庭」の誘 客強化による交流人口の拡大(北川村)</p> <p>《事業主体》 ・北川村 ・きたがわジャルダン</p>	<p>[目標(H27)] 入園者数：65,000人 H25 到達点 入園者数：60,000人</p> <p>[取組状況] ・企画展「モネの花図鑑」の開催(ハーブの章3/4～4/22、バラの章4/24 ～5/31、睡蓮の章6/1～9/19、七花の章9/16～12/1、ハーブ編3/1～24) ・企画展「押花展示(花たちからの贈り物)」の開催(6/1～7/15、睡蓮 根付け講習会6/23) ・企画展「写真家前田博史天然写真展」の開催(9/13～30) ・夜の睡蓮開花観賞会、水の庭朝食会の開催(9/14～16) ・睡蓮入れ替え見学ツアー(2/1)、森永乳業×モネの庭料理教室(3/26) ・モネの庭で朝食を～花の庭～(3/29～31) ・ガーデニング教室の開催(4/13、14、19、12/15、イオンモール4/20、21、 5/18、25、9/28、29)</p>

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・無料開放 (開園記念 4/19、12/1～1/9) ・広報活動の展開 (新聞折込誌ミリカの活用) ・日帰りエリアや団体への営業活動の拡充 (四国全域、岡山、神戸) ・ランチメニュー追加 (11/15～) ・園外出店によるPR・営業活動の実施 (北川村ユズ祭り 11/2、中岡慎太郎墓前祭 11/17、RKC ラジオ北川村キャラバン 11/18、安田山芋祭り 12/8、北川村観光びらき (3/2)、 ・新支配人の就任 (9/1～)、 ・産振アドバイザーによる接遇研修 (3回、2/6、2/20、3/14)、押花教室に向けた職員研修 6回 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園者増に向けた誘客対策 ⇒企画・イベントのバージョンアップと情報発信の更なる強化 ・営業体制の強化 ⇒観光協会との連携やフェイスブックの活用など多様な営業活動

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況 (結果、成果等を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 7 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 (室戸市、東洋町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市木炭振興会 ・土佐備長炭生産組合 	<p>[目標 (H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就労者： 5名 共同窯設置： 4基 生産量増産： 30t/年 新商品開発： 1商品 原木配給施設 1箇所 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就労者： 3名 共同窯設置： 4基 新商品開発： 1商品 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋町土佐備長炭生産組合が産振補助金を活用し共同窯等を整備 (審査会 7/24、採択決定 8/20、交付申請 8/26、交付決定 9/20) ・2事業体から活動計画・活動状況の聞取り (室戸 4、8、9月、東洋 4月) ・新規研修生の受入れ (東洋町 H25/7～ 2名、室戸市 1名) ・共同窯の整備に着手 (11月～) ・備長炭サミットへの参加 (3/19、20) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木調達や製品の販売対策 (室戸市) ⇒原木調達や協業化に向けた検討 ・新規就労に向けて受入れる研修生の独立支援 ⇒独立に必要な炭焼窯の整備経費支援策の検討

取組	取組状況 (結果、成果等を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 16 キラメッセ室戸「楽市」の機能強化 (室戸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>キラメッセ楽市来場者数： 258,000 人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>整備基本構想策定</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場拡張に係る保安林解除委託施工 <ul style="list-style-type: none"> 室戸市予算確保 (6月補正)、委託契約 (工期：8/13～11/15) ・周辺住民への保安林解除の事前意向調査の実施 (6月) ・「楽市」機能拡張に向けた関係者 (室戸市、県、指定管理者) 検討会 (8/15、11/11、12/2、12/16、1/28) ・整備基本構想 (基本計画、概算事業費) の作成 (1月) ・産振アドバイザーによる直販所レイアウト助言 (3/12) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場拡張を伴う加工施設の整備に向けた早期の整備基本構想の策定 <ul style="list-style-type: none"> ⇒駐車場拡張に係る保安林解除手続きの委託施行
<p>■No. 21 イルカのふれあい体験による交流人口の拡大 (室戸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸市 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>来場者数： 25,000 人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>来場者数： 27,000 人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設リニューアルオープンセレモニー (4/14) ・海の駅「とろむ」と施設オープン感謝祭を合同開催 (4/14) ・ドルフィンプロジェクト総会で営業方針・宣伝方法等を決定 (5/26) ・リニューアル施設の告知・PRを実施 (るるぶ四国掲載、テレビ放映、ほっとこうち1月号掲載、四国内旅行会社へPR、西日本高速SAフリーペーパー「遊悠」掲載、近畿西日本ツーリスト教育旅行パンフへの掲載) ・陸上施設や体験プログラムの充実 (陸上プール、受付・更衣室・シャワー室・講習室、イルカ2→4頭、体験プログラムの追加) ・リョーマの休日エリアキャンペーン登録 (協議7/31、ハロールドルフィン半額割引PR11月～2月) ・陸上補助プール整備を観光拠点等補助金申請 (12月下旬) ・「海の駅とろむの日 (10月6日)」記念イベントの開催 (事前協議8/13、8/23、8/30、9/4、9/17、10/1) ・体験メニューの企画と実施 (7/22、29、8/5 イルカと1日遊ぼう ふれあい体験&ドルフィンスイム 参加13名、8/26 木工工作&ハロールドルフィン 参加12名)

取組	取組状況（結果、成果等を含む）・課題と今後の対応
<p>■No. 29 安田中山地区の活性化プロジェクト（安田町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安田町 ・中山を元気にする会 ・安田川漁協 ・自然薯生産組合 ・味工房じねん ・中山合同女性部 	<ul style="list-style-type: none"> ・統括マネジャー（8/16～）と営業担当（9/11～）の配置 ・リョーマの休日（ハロールドルフィン半額）キャンペーン（11月～2月） ・陸上補助プール（直径5m、水深1.5m）の整備着手（3月） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更なる情報発信や施設整備による来場者増 ⇒とろむエリア全体の利活用策の検討 <p>[目標（H27）]</p> <p>—</p> <p>H25 到達点</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター「なかやま」の開設（4月） ・中山を元気にする会運営会等開催（4/23、5/14、6/4、総会6/5、交流会10/9、10/22、11/7、12/13、1/16、1/30、先進地の土佐町とんからりんの家を視察研修10/17） ・なかやま山芋祭り（12/8） ・高知大学・安田町連携事業協議会（6/5） ・旧中山小学校（集落活動センター）の耐震診断着手（6月） ・集落調査員の雇用（10/1～ 2名体制） ・民間企業によるシェアオフィス候補地視察（12/9） ・集落活動センター整備工事入札（12/20 結果は不落） ・移住相談会等参加（11/10 大阪、1/18 東京、1/25 大阪） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センターの円滑な運営と外部人材の活用 ⇒地域おこし協力隊員による運営支援の継続 ⇒地域おこし協力隊員の活動を通じた地域住民の参加意識の醸成

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費（補助金額）
<p>■No. 7 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化（東洋町）</p>	<p>・共同利用窯4基と運搬機材（フォークリフト）を整備し、生産・出荷体制を強化する。また、組合員の視察研修により新商品の開発や品質管理の向上を図るとともに、備長炭や産地を紹介したパンフレットを作成し、商品PRを行う。</p>	<p>18,237 (12,148)</p>

<p>■NO. 15 完全天日塩の生産の拡大と観光への活用 (田野町)</p>	<p>・田野町で完全天日塩を製造販売する田野屋塩二郎の塩を使った商品開発(塩大福等の商品開発や商品のパッケージデザイン)及び販路開拓を行う。</p>	<p>2,131(967)</p>
---	--	-------------------

3 県民参画に向けた取組

○第2期産業振興計画の周知

- ・室戸市議会全員協議会の講演
- ・地域アクションプラン事業主体の企業等訪問(室戸市、安芸市、奈半利町、田野町、安田町)

○土佐の産業おこし参加プラン募集の案内

- ・室戸市議会での説明

○産業振興計画シンポジウムへの参加案内

- ・地域アクションプラン事業者への案内(四国部品、大野倶楽部、安芸水産、JA土佐あき等)
- ・地域団体への案内(JA土佐あき、JA馬路、安芸商工会議所、中芸地区商工会等)

○土佐ビジネスアカデミーの受講への働きかけ

- ・地域アクションプラン事業者へ案内(安芸水産、一般社団法人 うみ路 他)

4 相談案件：12件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/16	商工	安芸地域の食材等を室戸市の宿泊施設や他の地域へ提供したい。
2	5/10	食品加工	田野町で生産する天日塩を利用した商品を開発・販売したい。
3	5/29	観光	岩崎弥太郎生家を活用した新規事業を創出したい。
4	6/24	水産	安芸市内でシラス加工品を使った飲食を提供する食堂を開きたい。
5	7/3	水産	深層水利用の養殖水産物(ナガレコ、アワビ)を加工商品にして販売したい。
6	10/18	農業	地域特産品のなはり味噌を増産するための設備や施設を整備したい。
7	10/18	観光	近代化産業遺産の指定を受けた奈半利町の施設を保存して観光に活用したい。
8	11/7	畜産	高知県内へ移住し、土佐ジローなどの養鶏で事業化をしたい。
9	11/11	水産	室戸で獲れる低価格魚(メジカ)の加工事業を拡大していきたい。
10	1/14	水産	東洋町の大敷網で水揚げされる魚を加工して海の駅や高知市で販売したい。
11	1/22	水産	深層水を利用したアワビ養殖の施設を整備したい。
12	2/14	食品加工	安芸市の食材を使って保存食などの加工食品を製造したい。

物部川地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 3 . 2 0

物部川地域本部

1 地域アクションプランの第4四半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全 24 項目について、必要な情報共有や積極的な事業進捗に向けた協議など、支援チーム員と関係者が連携して取り組んでおり、全項目において概ね計画どおり進捗している。

重点的な取組のうち、「地産地消・食育の推進」については、産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、JA長岡が4月2日の開業に向け、直販所の移転・拡充及び飲食店の整備に取り組んでいるほか、「豊富な地域資源を活用した1.5次産業化の推進」については、企業組合ごめんシャモ研究会が高知農業高校との連携のもと、同補助金を活用して、シャモの貯卵・孵卵施設を同高校内に設置し、シャモの安定的な生育体制の整備を行った。

「体験型観光商品の充実及び広域観光の取組の推進」については、映画「県庁おもてなし課」のロケ地マップ（香南市夜須町手結エリア）の配布や、恒例となった「岡豊山さくらまつり・土佐の食1グランプリ」や「長宗我部フェス」、「第3回龍河洞クリスマスキャンドルナイト」等の開催のほか、「土佐塩の道ウォーク」や「第2回土佐塩の道トレイルランニングレース」、「御幣切り体験」など物部川地域ならではの体験型観光を推進した。併せて、本年度発足した高知中央広域観光協議会が中部・関西・中四国地区でプロモーション活動を行い、モニターツアーを実施した。

また、産業振興推進総合支援事業費補助金については、上記2件の外、協同組合やすらぎ市が、トレフルッタを初めとする地域の農産物の加工施設を整備した。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
園芸主幹品目の再構築及び強化 ■No.1南国市の園芸主幹品目シトウの再構築(南国市) 《事業主体》 ・JA南国市 ・JA長岡 ・JA十市	[目標(H27)] シトウ販売額:10.8億円 [H25到達点] シトウ販売額:10.4億円 ※販売額はJAへの入金額 [取組状況] ・燃油価格高騰緊急対策事業により2戸がヒートポンプを導入し、木質資源利用促進事業により1戸が木質ペレットボイ

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 エメラルドメロンの販売力向上対策 (香南市)</p> <p>《事業主体》 ・ J A 土佐香美</p>	<p>ラーを導入した。また、試験用として1戸で木質チップボイラーを導入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 長岡シシトウ部会において炭酸ガス施用実証農家を決定し、調査を行っている。 ・ 各 J A シシトウ部会の反省会において、省エネ対策、 I P M 技術、品種比較の実証結果を報告した。併せて 26 園芸年度の取組について協議し、新たに 6 カ所に実証ほを設置し、調査を行った。 ・ 新規栽培者に対する個別巡回及び情報収集を行い、販売数量や決算書などの分析データを収集した。データを基に経営分析を行い、面談のうえ、26 園芸年度の目標を設定し、個別巡回(4戸延 60 回)により、指導を実施した。 ・ シシトウの生育状況について、中央東農業振興センターの HP において定期的に情報発信をした(毎月 3 回更新)。 ・ 3 J A 合同で東京、千葉の量販店において消費宣伝活動を行った。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>省エネ技術導入に向けた取り組み ⇒木質バイオマスボイラー、ヒートポンプについては補助事業等を活用した導入を推進していく。</p> <p>増収に向けた取り組み ⇒炭酸ガス施用について実証調査を行い、効果を検討する。</p> <p>土着天敵の導入 ⇒安定した防除効果を目指して実証ほの調査を行うとともに、各部会現地検討会等において情報提供を行い、天敵防除技術の改善を図る。</p> <p>担い手育成 ⇒経営改善計画の目標達成に向け、継続して指導していく。</p> <p>[目標 (H27)] エメラルドメロン販売額 : 4.8 億円</p> <p>[H25 到達点] エメラルドメロン販売額 : 4.8 億円 ※販売額は J A への入金額</p> <p>[取組状況] ・ 市場等が来高して商談を行った。</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.3 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」(香南市・香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA土佐香美</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関東、徳島、大阪、名古屋、兵庫、愛知で試食宣伝を行った。 ・炭酸ガス発生装置導入農家から炭酸ガス施用実態の聞き取りを行った。 ・高温期に適した温度・灌水管理について現地検討会を開催した(6/4, 7/25, 3/4)。 ・黄化えそ病防除対策勉強会を開催した。 ・天敵導入勉強会を開催し、部会全体で試験的に天敵を導入し、抑制栽培での天敵導入防除マニュアル案を作成した。 ・日本農業賞集団組織の部で優秀賞を受賞した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>収量品質の向上</p> <p>⇒炭酸ガス施用について施用効果の検証と改善策の検討を行う。</p> <p>難病害虫防除対策</p> <p>⇒促成栽培及び3作目についての天敵導入による防除効果の検証を行う。</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>ニラ販売額: 30.0 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ニラ販売額: 29.0 億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌消毒剤によるネダニ防除対策の現地検討会を行うとともに露地品種比較実証ほ及び展示ほを設置し(3ヵ所)、収量・品質、鮮度保持調査を行っている。 ・露地で軟腐病対策実証ほを設置し、定期的に薬剤散布を行い、防除効果を調査している。 ・電照栽培と炭酸ガス施用効果の検証を行っている。 ・異物混入対策の目慣らし会を実施するとともに、栽培講習会を開催し、栽培履歴の記帳及び提出を指導するとともに、安全・安心シートによる点検を行った。 ・収量、品質向上に向けて、作型調査を実施している。 ・新規栽培農家も参加したニラ部会現地検討会において、病害虫対策や栽培技術の指導を行った。 ・生産者やJAから提供を受けた経営状況や販売に関するデータの分析を行い、地区別検討会で経営分析結果を報告する

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会で雇用アンケート調査の分析結果を検討した。外国人研修生の受け入れについて幹旋組合に聞き取りを行うとともに、調整作業の機械化について導入産地の視察調査を行った。 ・突風被害調査及び対策協議を行うとともに、部会等が片付けなど復旧に向けた支援を行った。 ・災害復旧融資制度説明会を開催するとともに、災害農家の経営相談や災害レンタル等申請を支援した。 ・食博に点天と共同出展し(4/26～5/6)、ニラ等JA土佐香美園芸品の試食宣伝及び販売を行った。 ・役員会で販促活動を積極的に行うことが承認された。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>出荷量の増加及び周年安定生産 ⇒引き続き、病害虫対策及び有望品種の実証、月ごとの栽培指針の作成配布等を行うとともに調整作業の機械化を検討していく。</p> <p>新規就農者等の育成・確保 ⇒部会でのバックアップ体制の検討を行い、必要な対策を講じていく。</p> <p>部会員の経営改善の仕組み作り ⇒規模別の課題を抽出し、経営改善の指導に取り組む。</p> <p>突風被害への対応 ⇒早期の復旧に向け取り組む。</p>
<p>ユズの総合的な産地強化</p> <p>■No. 11 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策(香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・JA土佐香美 	<p>[目標(H27)]</p> <p>ユズ販売額: 5億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ユズ販売額: 4.5億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ産地協議会や座談会、若手生産者との意見交換会を開催し、出荷量維持のための後継者の規模拡大及び基盤整備の導入、経営モデルの作成を決定した。 ・こうち農業確立総合支援事業を活用して、小袋包装機とカラーリング施設を整備した。 ・後継者不在で規模を縮小したいと考えている生産者に聞き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>取り調査を行い、意向を把握することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうち農業確立総合支援事業を活用して、せまち直しを行った。 ・ユズ生産部委員会で、農業基盤整備促進事業の導入やスピードスプレーヤーによる防除作業の省力化、全量機械選果、「柚月」の小袋包装販売等について紹介した。 ・市場関係者を対象にアンケート調査を実施した。 ・ユズ産地構造改革計画を策定した。 ・ユズ生産部委員会で、防除作業の省力化のためのスピードスプレーヤー導入が承認された。 <p>[課題と今後の対応] 優良園地を維持管理する仕組みづくり ⇒ユズ産地構造改革計画をもとに、基盤整備や防除作業の省力化に取り組んでいく。</p>
<p>地産地消・食育の推進</p> <p>■No.4 地産地消・食育の推進(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA南国市出資農業生産法人 ・JA南国市、JA長岡、JA十市 ・南国市地産地消推進協議会 ・農家レストランまほろば畑 ・南国市 	<p>[目標(H27)] 学校給食における地元野菜の供給割合金額ベース：15% 業務筋への供給：15事業体</p> <p>[H25 到達点] 学校給食における地元野菜の供給割合金額ベース：13% 業務筋への供給：18事業体</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への配送業務について、南国スタイル・市・市教委が現在の発注や配送ルートについて協議を行うとともに、地域食材の使用を増やすため使用推移の分析を行い、改善策の検討を行っている。 ・南国市内の3JAシシトウ部会役員会で農家レストランまほろば畑との連携について協力を依頼した(8/20)。 ・農家レストランまほろば畑が来店者2万人を達成した(6/11)。 ・農家レストランまほろば畑3周年イベントを開催した(10/15)。 <p>(4/2~2/25の来店者数 平均194人/日)</p> <p>[課題と今後の対応] 配送効率の向上 ⇒配送ルートや受注方法の検討等を行い、配送効率の向上に努める。</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.5 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA長岡</p>	<p>JAとの連携強化</p> <p>⇒JAと情報共有を行い、農家レストランまほろば畑への食材供給方法、地元野菜のPR等について検討を行う。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>直販所等の売上額:100,000千円 直販所等の雇用者数:8人 ながおか温泉入場者数:19万人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>直販所等の売上額:33,000千円 直販所等の雇用者数:3人 ながおか温泉入場者数:16万人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月16日付けで産振補助金の交付決定を受け、飲食店工事は11月15日に完了、直販所は3月17日完了予定となっている。 ・11月18日に新たな運営組織となる「株式会社なの工房」を設立し、1月から順次スタッフを雇用し、オープンに向けた研修等を行っている。 ・観光アドバイザーの藤澤氏を招いて誘客活動等について検討した。(10/8) ・あけぼの市生産者組合の臨時総会を開催し、新施設完成後の運営体制等について協議した。(10/9) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>事業の年度内完了</p> <p>⇒進捗管理を行うとともに、必要な支援を行っていく。</p>
<p>■No.6 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA十市</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>直販所の営業日数:週6日 直販所への出店者数:100人 直販所売上額:50,000千円 直販所スタッフ雇用(新規):3名</p> <p>[H25到達点]</p> <p>直販所の営業日数:週6日 直販所への出店者数:90人 直販所売上額:34,500千円 直販所スタッフ雇用(新規):5名</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販所会員との意見交換会を開催した(5/20)。 ・営業時間を17:00までに延長した(6/13～)。 ・店頭で鮮魚や花苗の販売を開始した(6/15～、6/20～)。 ・運営会議を開催し、商品の品揃え等、今後の改善策の検討を行った(8/7)。 ・農林水産物直販所支援事業を活用してアドバイザーを招へいし、改善策等を協議した。(11/11) ・弁当の製造販売を開始した。(12/5) ・青果の仕入れ先を全農から高知中央青果市場に切り替えた。(2/6) ・海産物、練り製品の仕入れ販売を開始した。(2/18) ・新たな店長の下で運営改善に向けた取り組みがされている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>商品の充実</p> <p>⇒出荷会員の増による直販部門の強化を図るとともに、米粉パンの製造技術の向上及び商品の磨き上げを行う。</p>
<p>豊富な地域資源を活用した1.5次産業化の推進</p> <p>■No.7 地域の特産品づくり～農産物加工への取組～(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんこく空の駅推進協議会、西島園芸団地など既存企業、組織、グループ ・新しい組織、グループ ・JA南国市出資農業生産法人 ・南国市商工会 ・南国市観光協会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規): 10組織・団体</p> <p>開発商品売上額: 1,000万円(40品目)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規): 8組織・団体</p> <p>開発商品売上額: 1,900万円(24品目)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産品等研究開発事業(南国市)を活用して、4団体4品の商品開発を開始した。 ・実践型地域雇用創造推進事業によるセミナーを開始した。 ・西島園芸団地がフルーツを使ったドレッシングを開発、発売した。 ・なんこく空の駅推進協議会が地元産の梅を使ったドレッシ

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 8 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんシャモ研究会 ・南国市商工会 ・南国市 	<p>ングを開発、発売した。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>特産品づくりのプレーヤーの発掘・育成</p> <p>⇒地域特産品等研究開発事業及び実践型地域雇用創造推進事業(厚生労働省)等を活用して発掘・育成に取り組む。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>ごめんケンカシャモ提供店舗数: 18 店舗</p> <p>シャモ目標飼育羽数: 3,000 羽</p> <p>ごめんケンカシャモを使った加工品数: 3 品</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ごめんケンカシャモ提供店舗数: 18 店舗</p> <p>シャモ目標飼育羽数: 1,500 羽</p> <p>ごめんケンカシャモを使った加工品数: 1 品</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「土佐の食1グランプリ」及び「地域活性たから市」で優勝、第1回全国地場もん大賞で銀賞を受賞したシャモスキヤきをごめんシャモ鍋社中 20 店舗で提供しており、シャモスキヤきセットを商品化し、販売を行っている。 ・直営鶏舎整備計画の検討を行っている。 ・商談会等に参加するとともに、契約飼育についての協議を行っている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>販路開拓・販売促進と管理部門の人材育成</p> <p>⇒フェアやイベント、商談会等の機会を活用して知名度の向上を図るとともに、販路開拓及び販売促進に取り組んでいく。</p> <p>取り引きの増大に伴い、日々の経理や資金管理をはじめとする管理部門の人材育成・能力開発が求められる。</p> <p>シャモの安定的な生育体制の整備</p> <p>⇒貯卵及び孵卵施設整備のため産業振興推進総合支援事業に採択申請を行い、12月25日付けで採択された。</p>
<p>■No. 12 香美市ブランドの確立・特産品づくり(香美市)</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>開発商品売上額: 6,300 千円(20品目)</p> <p>[H25 到達点]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市観光協会 ・食品加工グループ <p>■No. 15 シイラ等の加工商材活用(香南市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県漁協手結支所 	<p>開発商品売上額：5,700千円(16品目)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人香美市観光協会が中心となり、香美市内外で開催されるイベントに参加し、シカ商品やユズ加工品を販売し、特産品のPRを行っている。 ・食品加工グループが農業創造セミナーに参加し、新たな取り組みについて検討を始めた。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>商品の販売促進及び販路開拓</p> <p>⇒イベント等に参加し、特産品の販売及びPRを行っている。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>シイラ加工事業の販売金額：700万円 衛生管理の認証：県版HACCPの取得</p> <p>[H25到達点]</p> <p>シイラ加工事業の販売金額：700万円 衛生管理の認証：-</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存取引先と定期的に情報交換を行い(2回/週)、販売先を確保している。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>加工場の周年稼働に向けた加工量の確保</p> <p>⇒既存取引先との連携を強化するとともに、新規販売先を開拓していく。</p> <p>衛生管理の維持向上</p> <p>⇒自主マニュアルを徹底していく。</p>
<p>地域に育つ県産材の有効活用</p> <p>■No. 13 民有林における素材の増産(物部川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各森林組合 ・林業事業体等 	<p>[目標(H27)]</p> <p>「森の工場」整備済面積：15,459ha 素材生産量(民有林のみ)：47,500m³</p> <p>[H25到達点]</p> <p>「森の工場」整備済面積：18,127ha 素材生産量(民有林のみ)：30,600m³</p> <p>[取組状況]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 14 木質バイオマスの活用に向けての取組(物部川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市 ・香南市 ・香美市 ・JA南国市 ・JA長岡 ・JA十市 ・JA土佐香美 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度の素材増産のための森林整備事業について森林組合及び林業事業体への説明会を行った(4回)。 ・香美地方部会を開催し、森林整備や素材増産に向けた協議を行った(5/9)。 ・香美市物部町庄谷相地区で森林経営計画が認定された(6/7)。 ・森林経営計画策定に向け、南国市、香南市及び香美市の3地区において、地元説明会を行った(7/6、8/6、10/7)。 ・森林の境界の明確化を352ha実施する予定。 ・素材生産のための作業道を14路線10,568m開設した。 ・「森の工場」整備済面積は18,143haとなった。 ・1月末までの民有林における素材生産量は35,615m³となり、H25年度の到達目標の116%となった。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>森林経営計画の策定</p> <p>⇒労働力の確保や機械装備などの課題に留意して、森林経営計画を策定していく。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>ペレット利用量:1,230t</p> <p>排出量取引:1,500t-co₂</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ペレット利用量:517t</p> <p>排出量取引:-</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市と南国市内3JAとペレットボイラー導入に向けた打ち合わせを行った(5/9、5/30)。 ・現地見積会を7カ所合同で実施した(5/15)。 ・南国市における木質バイオマスボイラー導入に係る地域事業評価委員会を設置した(6/27)。 ・同委員会を開催し、導入箇所(3箇所)を選定した。(7/10) ・南国市から木質バイオマスボイラー導入事業計画書(3箇所)が提出された(10/1)。 ・木質バイオマスボイラーの焼却灰の取扱について、関係機関への説明会を実施した(10/24)。 ・3JAに4基の園芸用木質バイオマスボイラーが導入された。 <p>[課題と今後の対応]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>木質ペレットボイラー導入要望への対応 ⇒来年度のペレットボイラー導入に向け、関係機関と連携し、補助事業等の活用を図っていく。</p> <p>木質ペレットの安定供給 ⇒安定供給の仕組みづくりに向けて情報収集を行っている。</p>
<p>歴史と伝統ある地場産業の振興</p> <p>■No. 19 地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興(香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県土佐刃物連合協同組合 ・香美市商工会 ・フラフ製造業者 ・香美市観光協会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>刃物製造業者数：現状維持</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>刃物製造業者数：現状維持(後継者育成モデルプランの活用)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あかめナイフの販売を開始した(5/23)。 ・積丹ソーラン味覚まつりで土佐打刃物の展示販売を行った(6/30)。 ・糸びす昭和横丁のイベントで土佐打刃物及びフラフのPRを行った(9/21、9/22)。 ・高知新港に寄港する大型客船の乗員乗客向け物販ブースにて、くじらナイフの販売を開始した(10/5、11/10)。 ・小学生を対象にフラフ染め体験を行った(10/4、10/29)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>土佐打刃物後継者育成 ⇒「土佐打刃物製造業の後継者育成に向けたモデルプラン」について関係機関で引き続き協議を行っている。</p>
<p>体験型観光商品の充実及び広域観光の取組の推進</p> <p>■No. 20 観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市観光協会 ・市内各観光に関わる企業・団体・グループ 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>観光協会の会員数：150</p> <p>一般社団法人数(観光協会の法人化)：1組織</p> <p>主要4観光施設※の入り込み数：500,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>観光協会の会員数：85</p> <p>一般社団法人数(観光協会の法人化)：1組織</p> <p>主要4観光施設※の入り込み数：517,000人</p> <p>※県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パシフィックゴルフ</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信(香南市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市観光協会 ・地域の体験メニュー等提供団体 	<p>(以上、来場者)、道の駅南国風良里(ショッピング、直販所のレジ通過人数)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市観光協会が一般社団法人化した(4/1)。 ・岡豊山さくらまつり・土佐の食1グランプリを開催した(4/7)。 ・第1回ごめん祭を開催した(5/12)。 ・長宗我部フェスを開催した(5/18)。 ・土佐のまほろば祭り(8/3)、岡豊山の夏祭り(8/18)を開催した。 ・婚活イベント「なんこくまち恋」を開催した(10/6)。 ・なんこくへんろウォークを開催した(11/17、12/15)。 ・なんこく大人の課外授業を開催した。(1/17) ・第4回フォトロゲイニング大会を開催した。(1/19) ・第2回スイーツグランプリ in 高知を48店舗の参加で開催している。(2/22~5/31) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>体験型観光の推進</p> <p>⇒コンテンツの創出、磨き上げ、育成、ネットワーク化に取り組んでいく。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>年間プロモーション活動:年6回以上(年のべ50社以上) 主催旅行の開催:10コース・募集200人以上</p> <p>[H25到達点]</p> <p>年間プロモーション活動:年6回以上(年のべ50社以上) 主催旅行の開催:10コース・募集200人以上</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐史跡めぐり~戦国の香美・香南を訪ねる~ツアーを実施した(5/25・29名参加)。 ・映画「県庁おもてなし課」ロケ地案内マップを作成し、道の駅やす等で配布している。 ・第2回土佐塩の道トレイルランニングレースを開催(12/8。191名参加申し込み、当日171名出走)し、世界選手権参加選手による講習会及び出走など大会を盛り上げた。 ・土佐塩の道でウォーキングや長谷寺で座禅体験を実施し

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 22 「森の駅」を中心とした体験型観光の推進(香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・香美市観光協会 ・地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体 	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とさ旅セミナーに参加し、秋冬の商品として、サンライズ・サンセットシーカヤックを開発、H26年10月より受け入れ開始を予定している。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>旅行企画の多様化と催行</p> <p>⇒地域素材を活用して多様化を図るとともに、告知方法を見直していく。</p> <p>プロモーション活動の実施</p> <p>⇒エージェント等への営業活動を行っていく。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>体験プログラム数: 20プログラム 体験プログラム受け入れ人数: 500人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験プログラム数: 16プログラム 体験プログラム受け入れ人数: 400人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・べふ峡温泉でピザ焼き体験、御幣切り体験、いざなぎ流舞神楽の観賞・体験を行った。 ・香美市三大祭り(川上様夏祭り、土佐山田まつり、奥物部湖水祭)等会場で体験型観光のPRを行った。 ・龍河洞の洞内照明のLED化や地域交流施設ほっと平山の案内看板新設等、受け入れ人数を増やすための環境整備に取り組んでいる。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>体験メニューの充実</p> <p>⇒地域と香美市観光協会が連携し、新たな体験プログラムの造成や参加者の受け入れ体制の整備を図る。</p>
<p>■No. 23 広域観光の取組の推進(物部川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知中央広域観光協議会のうち、南国市、香南市、香美市、(一社)南国市観光協会、(一社)香南市観光協会、(一社)香美市観光協会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>観光客入り込み数: 80万人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>観光客入り込み数: 65万人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知中央広域観光協議会設立総会を開催し、同協議会が発足した。併せて平成25年度事業計画及び予算を決定した

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(5/16)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域観光パンフレットを作成(2万部)した。 ・観光・物産展を開催した(12/7、12/8)。 ・とさ旅セミナーに参加した(6/13、7/2、7/3、9/19、11/25、11/26、1/22、1/23、1/24、2/18)。 ・エージェントセールスを実施した(1/22～1/24:中部・関西地区14社、1/29～1/31:中四国地区23社)。 ・エージェント向けモニターツアーを実施した(3/7～3/9)。 <p>[課題と今後の対応] 広域観光の戦略検討 ⇒4市の取組を明確化し、広域観光協議会の戦略を検討していく。</p>

②上記以外で特記すべき取組

該当なし

2 平成25年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位:千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No.5直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大(南国市)</p>	<p>・国道195号通称「あけぼの街道」の全線開通を好機ととらえ、直販所・加工所を本線沿いに移転拡充して地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売を行い、地域農業者の所得向上を図るとともに、隣接する「ながおか温泉」への誘客を促進し、交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>124,928(50,000)</p>
<p>■No.8「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組(南国市)</p>	<p>平成21年に「シャモ鍋」を開発し、南国市内の飲食店に「シャモ鍋社中」への参加を呼び掛ける等により、「地産『来』消」による交流人口の拡大を図ってきたところであるが、今後、ビジネスを更に発展させるため、県外の飲食店やスーパー、コンビニ等新規市場への本格的な参入、ギフト市場へ向けた加工品の開発等を進めていく。 そのために必要となる生産体制の</p>	<p>5,574(2,787)</p>

	確保に向け、高知農業高校に貯卵・ 孵卵設備等を整備する。	
■No. 10 加工品販売による夜須地域の活性化 (香南市)	地場産品を生かした加工品開発・販 売を行い、生産農家の所得向上に つなげる。	9,841(4,630)

3 県民参画に向けた取組

- ・香南市西川地区集落活動センター推進協議会役員会(5/2)及び全体会(5/8)で産業振興計画シンポジウムのPR
- ・香美・香南地区農業振興連絡協議会総会で第2期産業振興計画 ver2 及び産業振興計画シンポジウムについて説明及びPR(4/23)
- ・三水会※において、移住促進策(5/15)、高知家の取り組み(11/20)について説明
- ・香美(5/23)・香南(5/27)の各市商工会総会で、第2期産業振興計画 ver2 及び土佐MBAについて説明及びPR

※香美市の官公署、公共的団体、会社等の代表者等で構成される、親睦及び産業文化の向上発展への寄与を目的とする団体

4 相談案件：3件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	5/14	農業	南国市内の農業者の所得向上につなげるため、還元水を活用した野菜の実証栽培試験をしたい。
2	6/19	農業	トマトを生産している事業者が、南国市と香南市を中心に、トマトとワイン用のブドウを栽培してもらえる農業者を探している。
3	9/20	食品加工	県内で捕獲されたシカ肉を使用して、犬用ペットフードを製造・販売しているが、販路開拓に向けパッケージデザインを変更したい。

高知市地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 3 . 2 0

高知市地域本部

1 地域アクションプランの第4四半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全32項目の地域アクションプランについて、実行支援チームをつくり、事業推進に向けた支援と進捗管理を実施することにより目標の達成を目指している。

農業分野では、県下随一のキュウリの産地であるJA高知春野が、キュウリの代表的な病気である黄化エソ病対策として、天敵利用技術の普及を図るとともに、増収のため、炭酸ガスを施用する取り組みや新品種の生育調査を行っている。また、地域農産物の消費拡大を図るため、JA高知市の農産品加工施設の機能強化を高知県産業振興推進総合支援事業費補助金の活用によって支援し、併せて食品加工や販売の人材育成にも積極的に取り組んでいる。

商工業分野では、新たにアクションプランに加わった高知県産の竹を使った自動車用ハンドル素材や竹シートの製造において、取引先との協議が進み、新たに確保した新工場で主要工程の操業が始まるなど順調に推移している。また、弘化台ブランドの創出を目指した地元鮮魚を活用した食品の製造では、県水産振興部や工業技術センターと連携することにより商品が完成し12月から本格的な販売を開始した。

また、観光分野では、よさこい祭り60周年にあわせて4月27日にオープンした高知よさこい情報交流館が、2月28日現在で62,114人の入館者を迎えるなど、予想を超えるにぎわいを見せている。この施設は、はりまや橋商店街の東詰めにあり、はりまや橋商店街と連携したイベントを開催するなどして、大橋通りやひろめ市場周辺を中心市街地西地区とともに東西軸エリア全体の発展を図られるよう取り組んでいる。

(2) 具体的な動き

① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
地域の特色を活かした多様な農業の展開 ■No.1 キュウリの生産販売対策の強化による産地振興 《事業主体》 ・JA高知春野 ・JA高知春野キュウリ部会	[目標(H27)] 出荷量：H27園芸年度11,000t [H25到達点] 出荷量：H25園芸年度11,000t [取組状況] ・担い手対策(先進地調査5回、遊休ハウス情報収集の取組検討11回、受入農家との意見交換会2回、農地法等の勉強会1回)の実施 ・黄化エソ病対策として天敵利用の検討(協議会の開催2回、実証試験6ほ場、勉強会3回、現地検討会5回、環境保全

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知市 ・ J A高知市三里園芸部花卉部会 	<p>型農業推進事業活用による防虫ネット導入 12 戸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 量販店等での販売促進 P R の実施、販促用レシピ作成 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産地維持拡大体制整備 <ul style="list-style-type: none"> ⇒担い手が利用できる農地情報の収集及び共有、就農受入体制の検討 ・ 品質向上及び増収のための技術改良 <ul style="list-style-type: none"> ⇒天敵利用の普及に向けた実証圃の設置及び検討会の実施、炭酸ガス施用及び新品種の普及推進 <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額 : H27 園芸年度 80, 000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額 : H25 園芸年度 76, 000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な栽培管理技術の再確認 (球根管理、病害虫管理等勉強会の開催) ・ オレンジハート栽培管理の聞き取り調査の実施 ・ 試験場や農家代表も参加する球根肥大不良解消プロジェクトチーム会において実証試験を行い、解決のためのデータ収集や情報交換を実施 ・ イベント (高知 1 回・東京 1 回) での試飾による宣伝活動を実施するとともに、花保ちを確認するための輸送中の品質保持対策の検証 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>球根肥大不良の原因解明</p> <p>⇒農業技術センターとの連携による球根肥大試験の検証</p>
<p>■No. 3 生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知市 ・ J A高知市長浜支所園芸部花卉部会 ・ J A高知春野 ・ J A高知春野花卉部会球根部会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額 : H27 園芸年度 46, 000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額 : H25 園芸年度 45, 000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品質向上 (目慣らし会・ボリュームアップ処理実施 [5~6 花に摘蕾] 1 回)、コスト低減対策 (寒冷地型ヒートポンプ加温機の導入の検討 5 戸、36 台、102 a) の実施 ・ ユリのブランド化のための市場調査の実施、及びホームページによる情報発信 ・ 安定出荷を見据えた植え付け計画の検討 ・ 赤色 L E D 活用による徒長抑制効果の実証試験 (10 月~)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 5 ナシ産地の振興とブランド強化</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知市 ・ 針木梨組合 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外産地との技術交流 (J A春野⇄J Aにいがた) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品質の向上と市場ニーズに対応した出荷体制の構築 ⇒現地検討会・目慣らし会等の実施 <p>[目標 (H27)]</p> <p>生産量：H27 年産 550 t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>生産量：H25 年産 330 t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高品質化に向けた栽培講習会 (3 回 64 人参加) 及び巡回指導 (1 回)、出荷適期判定指導 (3 回) の実施 ・ 地域ぐるみの鳥獣害対策 (協議会及び地域パトロール) の実施 ・ 黒星病被害状況調査の実施 (1 回) ・ 針木新高梨収穫感謝祭の実施 (10/27) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産地ブランドの向上 ⇒高品質化への管理の徹底 (目慣らし、土壌管理等) ・ 鳥獣害対策の継続 ⇒カラス対策に加え、イノシシ・ハクビシン対策の強化
<p>■No. 7 新ショウガの生産振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知春野 ・ J A高知春野ショウガ部会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：H27 園芸年度 120,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：H25 園芸年度 95,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品質向上対策 (目慣らし会 1 回・土壌病害対策実証試験現地検討会 2 回、発生状況聞き取り調査 5 回) の実施 ・ 出荷場の機能強化 (洗浄水確保のための再処理装置導入効果の検証、腐敗防止対策としてマイクロバブル発生装置の効果の実証試験 H25～) ・ 販売・消費拡大 P R (スーパー等での消費宣伝 [高知 1 回、大阪 2 回、東京 1 回、宮城 1 回]) の実施 ・ 芽だし処理試験の実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品質の向上 ⇒市場での腐敗事故軽減対策・土壌病害虫対策の実施

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>中山間地域の振興</p> <p>■No. 8 ユズを核とした中山間農業の活性化</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 高知市 ・ J A 高知市土佐山柚子生産組合 	<p>[目標 (H26)]</p> <p>販売額：19,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：18,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗木育成圃場の管理指導（チーム員全員で 10 回） ・ 有利販売に向けた生産予測調査（5 回） ・ ユズ残渣対策の検討 ・ 生産者台帳及びマップ作成に伴う現地調査（19 地区） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>加工需要に応える産地の形成</p> <p>⇒生産者の高齢化等に伴うユズ園の現状把握、台帳作成整理等の実施、青果出荷への誘導、生産予測調査の継続</p>
<p>■No. 9 四方竹のブランド化による中山間地域の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 高知市 ・ J A 高知市特産部会（七ツ刈筍加工組合、土佐山四方竹生産組合、鏡特産部会） ・ (財) 夢産地とさやま開発公社 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：4,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：4,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加工場および機械格納用倉庫の整備（3 月完成） ・ 園地（耕作園、放棄園）マップ作成（協議・現地調査等の実施及びマップ作成作業） ・ 腐敗防止対策（冷水機導入等）によるブランド力の強化 ・ 試食宣伝活動の実施（大阪府 10/11～12） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>高知市四方竹振興計画の推進</p> <p>⇒地下茎等の生育調査、耕作放棄園マップ・各圃場状況個表を活用したデータベースの作成</p>
<p>■No. 10 「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (財) 夢産地とさやま開発公社等 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：10,720 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：11,800 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柚子果汁、ジンジャーエール等加工品の安定供給・販路拡大（首都圏でのイベント販売や、自社 E C サイト立ち上げ）

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 11 直販店を核とした鏡地域の活性化</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鏡村直販店組合 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな食品加工施設の整備(地域経済循環創造事業交付金[総務省]H25.3月採択) ・良質な堆肥の生産(とさやま土づくりセンター) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>公社及び農家の所得の向上 ⇒新たな加工品の開発と新加工施設の整備</p> <p>[目標(H26)]</p> <p>販売額:17,000万円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>販売額:16,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需給改善品目(キュウリ等4品目)の動向調査と作付体系作成 ・夏季葉菜類の収穫に向けた作付誘導(実証圃場の設置2箇所:コマツナ7作、小ネギ5作栽培) ・普及員OGによる地元産物を使った料理講習会の開催(5回・延べ39人) ・組合員の意向調査により野菜乾燥機導入を検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>需給改善対策の推進 ⇒乾燥野菜の商品化検討、料理講習会、栽培実証内容の情報提供と栽培への誘導等の実施</p>
<p>■No. 14 森の工場を核とする素材生産量の拡大</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市森林組合 	<p>[目標(H27)]</p> <p>森の工場面積:1,500ha</p> <p>素材生産量:4,000 m³</p> <p>[H25到達点]</p> <p>森の工場面積:1,174ha</p> <p>素材生産量:3,270 m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材増産に係る関係機関への森林整備事業説明会の開催(4回) ・市広報紙や県ホームページによる、間伐の啓発と補助制度紹介の実施(8月) ・森林施業集約化に関する地元説明会開催(9月2回) ・作業道の開設(鏡地区2路線、土佐山地区1路線) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>素材の増産 ⇒森の工場の拡大のために施業合意率の向上を図る</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒森林所有者への戸別訪問や地元説明会を行い、事業への理解を得る
<p>一次産品(地域資源)を活用した6次産業化の推進</p> <p>■No. 16 春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)スタジオ・オカムラ ・連携農家 <p>■No. 12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知市 ・JA高知市女性部 <p>■No. 13 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市酪農農業協同組合 	<p>[目標(H27)]</p> <p>販売額: 9,400万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額: 6,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百貨店でのお中元ギフトカタログ等による販売(中元関連販売額が前年からほぼ倍増) ・好調なジンジャーエール等炭酸飲料の増産体制整備 ・加工品販売額(4~1月): 35,750千円(対前年148%) ・高質スーパー向けPB商品の開発 ・一般量販店向け価格帯のトマトソース等の生産販売開始 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>小口配送に伴う物流コスト ⇒首都圏のスーパーのPB商品生産など量のまとまりを目指した販路開拓</p> <p>[目標(H26)]</p> <p>販売額: 2,000万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額: 1,935万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産加工施設「婦人の家」の改修に対する支援(高知県産業振興推進総合支援事業費補助金H25.6月採択) ・夏秋野菜の新品種勉強会の開催 ・販売や加工の人材育成(直販所安心係養成講習会・販促用POP研修会等) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>「婦人の家」の機能強化 ⇒加工施設の機能強化支援、加工人材の確保・育成</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>店舗の販売額: 1,600万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>店舗の販売額: 1,400万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客ニーズに合った商品開発

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20 「弘化台ブランドの創出」地元鮮魚を活用した食品の製造・販売</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株)永邦水産</p>	<p>・店舗での販売額見込み(4~2月):11,206,421千円(対前年比102%)</p> <p>・オープンファーム(11回)、酪農教育ファーム(22回)の実施により店舗の認知度の向上を図る</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新規顧客の開拓とリピーターの確保 ⇒イベントの継続的な実施とブログ等での情報発信、店舗外(県庁生協、ネット販売等)での販促活動の充実</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>食品加工品の売上額:2.5億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>食品加工品の売上額:1.5億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新加工施設の整備完了(5月末) ・従業員の確保(新規雇用15名) ・食品営業許可の取得(3業種) ・県水産振興部や工業技術センターと連携した食品衛生管理の強化 ・パッケージデザインや販路等の検討(地域活性化ビジネス相談会への参加[主催:中小企業団体中央会・9月]) ・主力商品「レンジdeクック」5アイテムが完成(12月) ・「土佐の宴・高知家の食卓」(1月・大阪)への出展 ・こうち生協等での販売開始(2月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>商品づくりと販路の確保 ⇒大手量販店との商談のための支援</p>
<p>■No. 21 地域の農産物を使った菓子類等の外商の推進</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(有)マンジェ・ササ</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>首都圏での売上額:1.7億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>首都圏での売上額:7,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月に東京駅の丸の内側地下街に直販店舗を出店、5月には自由が丘に首都圏での2号店を出店 ・四万十米粉と柚子を使ったカステラや、「茗荷とグレープフルーツのタルト」など県産野菜を前面に出した菓子類等を首都圏で直販 ・季節、県産果実・野菜の旬に応じた商品展開 ・店舗内でのケーキバイキングやクッキングショーなど認知

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>度を上げるイベントを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀座三越の「秋のいろどりフェア」に出店(9/4~9/10) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>高知県産の野菜とスイーツの組み合わせなど意外性のある商品の消費者へのアピール</p> <p>⇒テレビや雑誌などを媒体とするグルメレポートや、自社ホームページによる商品と活用食材の情報発信</p>
<p>新分野への挑戦</p> <p>■No. 18 県産竹材を用いた新規分野への製品展開</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)コスモ工房 <p>■No. 19 防災食の開発・製造・販売</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県食品工業団地事業協同組合の企業など 	<p>[目標(H27)]</p> <p>売上額：1.2億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>売上額：9,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹製ハンドルの増産に伴うラミナの増産対応 ・新製品開発(竹シート)および事業化に向けた検討 ・ものづくり補助金(中小企業団体中央会)を活用(6月採択済)して竹シート製造用ロールプレスの設備導入を決定 ・高幡地域本部と連携した竹材の確保(須崎地区森林組合3月事業開始) ・東京インターナショナルギフトショーへの竹シート等の出展(9/4~9/6) ・第1回高知ビジネスチャレンジ基金事業の優秀プランに認定された(11/1) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>竹材の確保と業務拡大に向けた支援強化</p> <p>⇒高知市と連携した新工場整備や雇用に対する支援</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>アイテム数：50アイテム</p> <p>[H25到達点]</p> <p>アイテム数：6アイテム</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産品を原材料とする防災食の開発 ・防災展(5/24~25 中部ライフガードTEC)への出展 ・防災展(10/17~18 防犯防災総合展 in KANSAI2013)出展 ・防災展(11/10 防災ものづくりフェスタ[高知会場])出展 ・「土佐のミリメシ」が高知県防災関連製品認定制度の認定を受けた(1月) ・フーデックスジャパン2014への出展(3月) <p>[課題と今後の対応]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	新商品の開発、販路の確保、商品の改良 ⇒量販店等への販路開拓
<p>中心市街地の活性化</p> <p>■No. 23 中心商店街でのアンテナショップの運営</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株)まこと</p> <p>■No. 24 多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり</p> <p>《事業主体》</p> <p>・商店街振興組合など</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>販売額：184,300千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：153,600千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある県産品の掘り起こし →登録アイテム累計4,552、約1,600点を陳列、販売 ・4年目の販売額は、前年実績に対し111%（一日平均売上額403千円） ・クルーズ客船新港入港時の出張販売（9回） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>「てんこす」の販売額アップ ⇒商店街関係者・NPO・学生等との連携による地域産品のPRや集客イベントの開催</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100円商店街等のイベントの実施 ・季節に応じたフラフを飾り、商店街のにぎわいを演出 【4～5月：南国土佐の春】【7～8月：よさこい】 【9～10月：土佐の偉人】【1月：書き初め】 【2～3月：土佐の食、酒文化】 ・まちゼミ開催・34店38講座・約390人参加（11/1～11/30） ・イルミネーションフェスタ[中央公園]の実施（11～1月） ・スポーツGOMI拾い実施・14チーム約60人参加（12/22） ・図書館通り商店街（中の橋商店街）の誕生イベント（1/11～12） ・土佐のおきゃく2014の開催（3/1～9） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>集客力の向上、リピーターの創出 ⇒商店街での集客イベントの実施</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>魅力ある観光戦略の展開</p> <p>■No. 27 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)城西館等 ・高知市 	<p>[目標(H27)]</p> <p>高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数：112万人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数：114万人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城西館による四万十町方面での着地型観光ツアーの展開 ・高知中央広域観光協議会の設立による観光資源の広域ネットワーク化 ・各種情報誌等への観光広告の掲載 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな着地型旅行商品の開発、及び既存の商品を併せた宿泊客へのPR ・近隣地域との連携の強化 ⇒高知中央広域観光協議会、仁淀川地域観光協議会等との連携
<p>■No. 28 本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市 ・(社)高知市観光協会ほか関係団体等 	<p>[目標(H27)]</p> <p>よさこい祭り来場者数：近年の最高来場者数(1,200千人)の維持</p> <p>[H25到達点]</p> <p>よさこい祭り来場者数：1,200千人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知よさこい情報交流館事業の実施(4/27オープン、入館者2/28現在62,114人) ・はりまや橋商店街と連携したイベント(よさこい鳴子踊り等)の実施 ・よさこい発祥の地PR事業(全国よさこいサミット等)の実施 ・原宿表参道元気祭スーパーよさこい(8/24～25) 紀州よさこい(8/4～5)[和歌山市] みちのくYOSAKOIまつり(10/12～13)[仙台市] YOSAKOIさせば祭り(10/19～21)[佐世保] ドリーム夜さ来い(11/2～3)[お台場、丸の内、有楽町] 龍馬よさこい(11/9～10)[京都市]への参加 ・土佐のおきゃく「よさこい春の舞」(3/8～9) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>「よさこい」イベントで年間を通して集客を図る ⇒まちなかよさこい、駅前よさこい鳴子踊りの実施</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 31 土佐の偉人を活かした観光の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市 ・(社)高知市観光協会 ・特定非営利活動法人土佐観光ガイドボランティア協会 ・長宗我部連絡協議会等関係団体 	<p>[目標(H27)]</p> <p>「龍馬の生まれた町歩き～土佐っ歩～」等への参加人数： 3,800人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>「龍馬の生まれた町歩き～土佐っ歩～」等への参加人数： 2,695人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「龍馬に大接近」の実施(4/20～5/12)約27,000人集客 ・土佐っ歩の実績4～2月：1,188人、(対前年比131%) ・第2回長宗我部まつり開催(5/19)：約1,500人集客 ・土佐観光ボランティア協会ガイド養成講座開催(9/25) ・武市半平太生誕祭キャンドルナイト開催[菜園場](9/27) ・武市半平太まつり開催[菜園場](11/9) ・武市瑞山記念館トイレ完成(1/26)[おもてなしトイレ認定] ・第3回長宗我部まつりに向けた高知大学KICSとの連携によるイベントの検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>更なる集客力の向上 ⇒偉人関連施設及びイベントの充実強化、団体客の確保</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
該当なし	

2 平成25年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知市 ・JA高知市女性部 	<p>JA高知市女性部直販部会の農産加工施設(婦人の家)の拡充整備により、地元農産物や県産物を活用した加工品の製造量を増やし、直販所での販売を拡大する。</p>	<p>12,134 (5,303)</p>

3 県民参画に向けた取組

- ・企業訪問時に土佐の産業おこし参加プラン、産業振興計画シンポジウムのPR
- ・地域団体（春野地域ほか）の行事の際に産業振興計画のPR
- ・工業会、発明協会に対して産業振興計画シンポジウム、土佐MBAのPR
- ・高知市主催のイベントで、産業振興計画シンポジウム、土佐MBAのチラシの配布

4 相談案件：11件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/16	農業	ニラ収穫の機械化について
2	4/16	工業	発電装置の製造に係る支援について
3	5/9	商業	廃校になった小学校の民間活用について
4	7/12	商業	スポーツ事業に対する支援について
5	8/22	商業	新分野に進出しようとする企業に対する助成制度について
6	9/10	工業	竹炭製造工場の立地について
7	10/28	商業	木炭の需要増大に対する体制づくりについて
8	11/27	商業	チェーンソーアートの販売方法について
9	12/5	商業	地場産品を取り扱う新店舗の開設について
10	1/6	商業	あわび養殖に対する支援策について
11	2/21	商業	ハモ加工場の建設の支援策について

嶺北地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 3 . 2 0

嶺北地域本部

1 地域アクションプランの第4四半期の実施状況（総括）

(1) 総評

嶺北地域では、核となるプレイヤーが複数の取組を行っている現状であり、各分野で新しい担い手やリーダーの人材育成が急務となっている。

そのため、各分野ごとの担い手育成の取組に加えて、4町村が連携した観光・交流人口の拡大や移住促進の取組の中で、U・Iターンによる地域外からの担い手確保の取り組みにも力を入れている。一方で、地域内の人材育成として嶺北高校と連携して将来の担い手の育成にも取り組んでいる。

本年度の嶺北地域の28項目のアクションプランについては、概ね計画に沿った取り組みが進められている。嶺北高校の取組では、県内企業との連携も具現化され、嶺北高校生が考案した新商品が昨年11月及び今年3月から各2品目の計4品目で商品化され、県内の量販店等で販売も開始されている。

また、県外大学等と嶺北地域観光・交流推進協議会との連携協力についても、新たな大学等ともその連携を模索し始めるなど、継続的な取り組みとして広がりを見せるとともに、民泊を含めた体験型旅行の具現化に向けて、検討を始めている。

更に、大阪圏都市部（行政、民間団体）との連携についても、11月からインターンシップ研修生の受け入れが始まり、二地域居住を含む、人的・物的交流への継続的な取り組みが進められ、移住に向けた動きも見られるなど、期待も抱かせる状況になっている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>“れいほく”ブランドの園芸産地の確立及びユズ加工品の販売促進</p> <p>■No.1 れいほくブランドの園芸産地の維持 (嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐れいほく(園芸部会、花き部会) ・直販生産部会土佐町支部 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>れいほく八菜 販売額：1.6億円 れいほく八菜 生産者数：136人 研修による新規就農者数：8人(累計)</p> <p>れいほく八花 販売額：1.1億円 直販売上額：9.5千万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>れいほく八菜 販売額：1.6億円 れいほく八菜 生産者数：170人 研修による新規就農者数：8人(累計)</p> <p>れいほく八花 販売額：1.2億円</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>直販売上額：8.5千万円</p> <p>[取組状況]</p> <p>(担い手育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営実態調査(部会、モデル農家2戸) ・啓発：現地検討会3回、個別巡回20回、個別面談8回 <p>(れいほく八菜)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA各生産部会の現地検討会(32回) ・天敵の推進講習会(2回)、天敵リレー(2回)、天敵利用促進ハウス設置(2カ所) ・栽培管理指導(土壌溶液分析)(14回) ・嶺北八菜販売額：2.1億円(H25.1~12) ・販売促進企画会議(13回) ・販売先の拡大：1店舗(県外) <p>(れいほく八花)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理巡回指導(22回) ・土壌分析による施肥指導(14回) ・ノーブルを中心とした販売促進活動の検討(15回) <p>(直販)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会(9回) ・現地巡回指導(12回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>(担い手育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な担い手確保 ⇒関係機関、農業者が一体となった取組の推進 <p>(れいほく八菜)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹品目(米ナス、シシトウ、ピーマン)の栽培確立 ⇒生産技術の向上、病害虫対策の向上 ・販売促進活動などによる販売拡充 ⇒販売拠点(コープかがわ)の充実と消費宣伝 県内市場及び大阪市場の販売強化 <p>(れいほく八花)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーブルの高品質・安定生産技術の確立 ⇒ノーブルの球根供給システムの確立と生産技術向上の体制づくり ・市場への販売促進活動 ⇒県内外の市場商談会等への参加 <p>(直販)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販生産者の生産量の増 ⇒栽培管理指導による出荷量の増及び品質向上

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 ユズ産地の確立と加工・販売の促進 (本山町、大豊町、土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域果樹(ゆず)産地協議会 ・JA土佐れいほく 	<p>[目標(H27)]</p> <p>加工品販売額: 6億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>加工品販売額: 4.5億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出候補園地決定(土佐町50a) ・個別巡回指導(8回) ・生態(着花状況等)調査(12回) ・冬期栽培管理技術講習会(1回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ加工品の販路拡大 ⇒国外への販促活動の強化
<p>J A 出資型法人を核とする地域活性化の取組</p> <p>■No. 6 J A 出資型法人を核とする地域活性化の取組(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐れいほく ・(株)れいほく未来 ・米米ハート 	<p>[目標(H27)]</p> <p>農業経営事業(園芸)売上高: 3,000万円 研修による新規就農者数: 3人(累計) 事業主体への新規雇用数(累計): 2人 米粉等の販売額: 1.6億円 内訳: 4,000万円(米粉等) 5,000万円(米粉パン等) 7,000万円(ブランド米等)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>農業経営事業(園芸)売上高: 1,207万円 研修による新規就農者数: 0人(累計) 事業主体への新規雇用数(累計): 1人 米粉等の販売額: 1.55億円 内訳: 2,500万円(米粉等) 5,000万円(米粉パン等) 8,000万円(ブランド米等)</p> <p>[取組状況]</p> <p>(農業経営事業、米関連事業、農作業受託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作付実績: 園芸作物 86a、新規需要米 210a ・農作業受託: 水稲 1,690a、ハウス 36a ・農業経営事業(園芸)販売額: 16,121千円 ・育苗事業販売額 41,626千円 (野菜 7,627千円、花 67千円、水稲 33,932千円) ・農作業受託事業: 2,789千円 <p>(米粉事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうち農商工連携基金事業の採択(事業費: 4,254千円) ・れいほく未来、とさ千里、嶺北高校の連携による新商品、

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>米粉加工品の販路拡大の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談会への参加(2回) ・個別商店等との商談(4回) ・作付実績:米粉用米16.5ha ・米粉・米粉加工品販売額:18,669千円(H25.4~H26.1) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業体(JA出資型法人)の経営の安定化 ⇒中期経営事業計画(5ヶ年)の実践支援 ・米粉・米粉加工品の販売拡大 ⇒農商工連携基金事業の効果的な活用 (新商品を用いた販売促進活動等への実践支援)
<p>肉用牛産業の再興及び土佐はちきん地鶏の振興による畜産業の展開</p> <p>■No.8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興(本山町、土佐町、大豊町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐れいほく ・(株)れいほく未来 ・飼養者 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 <p>■No.9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化(大川村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)むらびと本舗 ・大川村 	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐あかうしの販売額:2.1億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐あかうしの販売額:2億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎建築予定地の造成着工及び畜舎建築着工 ・繁殖雌牛9頭導入(累計25頭) ・繁殖開始20頭 ・分娩1頭(2月末) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎建築予定地の早期造成 ⇒関係者による事業内容の協議(計画的な施設整備) ・飼育担当者の飼養管理技術の向上 ⇒飼養管理技術の向上支援(現地指導等) <p>[目標(H27)]</p> <p>黒牛の販売額:8.2千万円</p> <p>はちきん地鶏出荷羽数:10万羽</p> <p>[H25到達点]</p> <p>黒牛の販売額:7.0千万円</p> <p>はちきん地鶏出荷羽数:7万羽</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶏舎の改築(換気・結露・害獣対策) ・飼養管理技術向上の取り組み ・処理羽数:4.9万羽(1月末現在) ・繁殖雌牛1頭導入 <p>[課題と今後の対応]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の飼養管理技術の向上 ⇒ 職員の飼養管理技術の向上支援(現場指導等) ・ 繁殖雌牛の増頭及び高齢牛の更新 ⇒ 計画的な繁殖雌牛の保留
<p>嶺北材の増産及び販路拡大</p> <p>■No. 10 間伐の推進と素材生産の拡大 (嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林所有者 ・ 森林組合 ・ 素材生産事業体 ・ 自伐林家 <p>■No. 11 れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)の促進(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (株) SUN SHOW ・ レイホク木材工業(協) ・ 吉野川リビング(協) ・ 土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>素材生産量: 150,000 m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>素材生産量: 100,000 m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 架線集材システム支援事業による支援 (3事業体 11箇所) ・ 森林組合連合会と連携し、増産に向けた経営指導の実施 (3森林組合) ・ 先進的林業機械の導入 (2事業体) ・ 高性能林業機械等の導入 (5事業体) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原木増産体制の整備 ⇒ 搬出間伐の補助を受けるための計画作成支援 皆伐、再造林への支援 <p>[目標(H27)]</p> <p>木材の出荷量: 900 m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>木材の出荷量: 540 m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県外工務店社員研修受入(1回) ・ 納材実績: 36棟、836.19 m³(2月末現在) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早期の「れいほくスケルトン」の基準作り ⇒ 関係者と次期展開に関する検討・協議の実施
<p>大型製材工場の設置</p> <p>■No. 15 大型製材工場の設置による地域材の利用の促進(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高知おおとよ製材(株) 	<p>[目標(H27)]</p> <p>製材品の生産量: 55,000 m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>製材品の生産量: - m³</p> <p>[取組状況]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・大豊町 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高知おおとよ製材」稼働 (H25. 8. 26) ・「高知おおとよ製材」採用者の就業 (35名:累計42名) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木供給体制の整備 ⇒関係機関と連携し、原木市場を中心とした供給体制の整備検討
<p>地産外商の促進</p> <p>■No. 18 土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の促進(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)とさ千里 ・JA土佐れいほく ・土佐町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額:1.2億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額:0.85億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗、HPのリニューアル(4月) ・催事(5月・8月・9月催事の他、週末毎のカツオのタキ実演販売など) ・地域産品商談会参加(5月)等による新商品の導入 ・県大阪事務所での木曜市(26回) ・県大阪事務所からの依頼出店(5回) ・「てんこす」「まるごと高知」からの情報提供(毎月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来店者増(売上増)に向けた取り組み ⇒地域住民をリピーターとして確保するための品揃え(生鮮野菜、日配品、パン) 催事開催による新規誘客 県による支援(てんこす等の情報提供、県人会等へのPR)
<p>嶺北地域の連携による交流人口の拡大</p> <p>■No. 19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域観光・交流推進協議会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>公共関連宿泊施設での宿泊者数:12,000人</p> <p>新たな旅行商品となる体験メニュー数:5件(累計)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>新たな旅行商品となる体験メニュー数:3件(累計)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域の旅行商品化の動き 商品化:5社・25本(3月6日現在) 催行:4社・22本 809名(3月6日現在) ・大学と連携した商品磨き上げの取組 大学:3校(県外3校) ・エリアキャンペーン(4/1~9/30)実施 インターネットツール(ブログ、フェイスブック等)で

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光人材育成塾「とさ旅セミナー」への参加 ・民泊研修の実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域観光のコーディネート組織(人)の機能強化 ・次年度以降の協議会の事務局体制の検討 <p>⇒嶺北地域観光・交流推進協議会で検討</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 4 米のブランド化による稲作農業の展開 (本山町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町ブランド化推進協議会 ・(財)本山町農業公社 ・本山町酒づくり協議会 ・ばうむ合同会社 ・本山町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ブランド米の販売額：1億円 焼酎販売本数：17,800本</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ブランド米の販売額：5,000万円 焼酎販売本数：12,600本</p> <p>[取組状況]</p> <p>(ブランド米)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理指導(13回) ・田んぼアートの実施 ・栽培面積31ha、生産者39戸、生産量4,356袋 ・米・食味分析鑑定コンクールにおいて都道府県代表で金賞受賞 <p>(焼酎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造免許の取得(10月) ・焼酎PR活動(18社) ・醸造数：2,618% ・販売本数：1,274本 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>(ブランド米)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者価格の向上 ⇒直接販売増の取組の実施 <p>(焼酎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品(焼酎等)の安定的な生産と販路拡大 ⇒卸業者等へのPR活動の実施
<p>■No. 5 (株)大豊ゆとりファームを核として 地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組(大豊町)</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>基石茶関連商品の総販売額：0.5億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>基石茶関連商品の総販売額：0.2億円</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)大豊ゆとりファーム ・大豊町碁石茶協同組合 ・大豊町 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碁石茶の販促活動 新規取引先：20社 碁石茶関連商品の総販売額：0.13億円 ・クールベジタブルの販促活動 新規取引先：1社 販売額：4,165千円 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碁石茶の茶葉、加工品の販路拡大 ⇒商談会への出展等による新たな取引先の開拓
<p>■No.7直販所「本山さくら市」を核とした地域活性化の取組(本山町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山さくら市運営委員会 ・(財)本山町農業公社 ・本山町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>販売額：1.8億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>販売額：1.42億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業適正使用講習会(1回) ・先進地視察研修(2回、延べ3日) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品、情報発信機能の充実 ⇒栽培講習会、PR活動等の継続実施
<p>■No.24滞在型市民農園の推進による地域の活性化(本山町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>町内移住者：30人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>町内移住者：15人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用開始(6月9日) ・施設利用者(4組9人) ・町内移住者(14組21人) ・県外相談会への参加(13回、相談者65名) ・施設利用者と地域住民との交流活動 6回 ・日帰り見学ツアーの開催(4回、参加者 17名) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在後の移住への移行 ⇒施設利用者と地域の交流機会の拡大
<p>■No.25嶺北地域の連携による移住促進の取組(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>移住者数：100人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>移住者数：50人</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>・れいほく田舎暮らしネットワーク</p> <p>・本山町</p> <p>・大豊町</p> <p>・土佐町</p> <p>・大川村</p> <p>■No. 27 地域内高校と連携した将来の担い手育成に関する取組(嶺北地域全域)《事業主体》</p> <p>・(株)れいほく未来</p> <p>・嶺北高校</p> <p>・本山町</p> <p>・大豊町</p> <p>・土佐町</p> <p>・大川村</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住促進連絡会の開催(12回) ・県外での移住相談会への参加(15回) ・移住相談受付件数:177件(H26.2末現在) ・移住実績:54件77名(H26.2末現在) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局体制の整備 ⇒町村、れいほく田舎暮らしネットワーク、県により協議 <p>[目標(H27)]</p> <p>商品提案数:5件(累計)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>商品提案数:3件(累計)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米粉等を利用した新商品の開発及び販路開拓 こうち農商工連携基金事業を活用し、(株)れいほく未来・(株)とさ千里・嶺北高校による6次産業化の取組を展開中 ・連携事業者の開拓 ・連携事業者向けの試食会 1回 ・連携事業者による指導・助言 ・試食アンケート(2回) ・(株)れいほく未来に6品目を提案 ・新商品の販売開始 (11月7日～ 2品目) (3月16日～ 2品目) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生が主体的に動き出すキッカケづくり ⇒高校生を主体とした模擬会社化の体制づくり

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 8 土佐あかうしの競争力の確保による 肉用牛産業の再興（土佐町） (H25. 10. 8 交付決定)	土佐あかうしの生産基地整備による 生産体制の強化に向けた取組 (育成畜舎、肥育畜舎の整備)	78,750 (12,500)

3 県民参画に向けた取組

(1) 各種会議での説明・PR

実施日	会議等の名称	説明・PR等の内容
4月19日	土佐町部落長会	第2期計画
4月24日	大豊町商工会理事会	〃
4月30日	大豊町区長会	〃
5月23日	大豊町森林組合理事会	第2期計画（資料配布のみ）
5月23日	本山町商工会総会	第2期計画
5月27日	土佐地区商工会総会	〃

(2) その他

1) 文書でのPR

- ・産業振興計画シンポジウムの案内・・・3 地区商工会、4 町村森林組合、4 町村、
フォローアップ会議委員、JA、嶺北高校 ほか

2) 学校でのPR

- ・第2期計画の説明・・・嶺北高校（11月7日）

4 相談案件 1件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	H25. 4. 1 H25. 6. 10 H25. 11. 7	飲食店	町内に安定して土佐あかうしを提供できる飲食施設を整備したい。

仁淀川地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 3 . 2 0

仁淀川地域本部

1 地域アクションプランの第4四半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全 38 のプランについて、実行支援チームを編成、事業推進に向けた協議と進捗管理を実施し、それぞれの地域アクションプランに掲げた目標の達成に向けて取り組んでいる。

事業のさらなるステップアップや課題を抱えている案件について、人材育成の講座への誘導、アドバイザーの派遣、各種補助金の活用など、場面に応じた支援事業を導入し、具体のサポートを実施している。

特に、産振補助金を活用して整備した土佐市高岡商店街の集客施設「ドラゴン広場」や、現在、リニューアルオープンを目指して整備を進めている日高村の直販所「さんさん市」については、経営改善や運営体制の確立に向けて、実施主体との情報共有、推進のための協議を続けている。

また、平成 22 年度に設立し、旅行会社によるツアーの実績を大幅に伸ばしてきた仁淀川地域観光協議会の取り組みは、今年度も順調に入込客数を増やしてきており、引き続き、仁淀川地域の観光資源の掘り起こしを図るとともに、県の観光施策とも連携してセールス活動を進めることとしている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>地域の特徴を活かした多様な農業の展開</p> <p>■No. 3 薬用作物の産地拡大による所得の向上 (仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・農事組合法人ヒューマンライフ土佐</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ミシサイコ作付面積：70ha サシヨリ作付面積：80ha ダダイ作付面積：30ha</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ミシサイコ作付面積：52ha サシヨリ作付面積：65ha ダダイ作付面積：23ha</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシサイコの実証圃での生育調査 ・ミシサイコ最終摘芯後の土壌分析 (8月) ・薬用作物現地検討会の開催 (6/17 生産者及び各振興センター) ・ツムラの意向把握 (環境農業推進課) ・ツムラ、ヒューマンライフ土佐、越知町の良好な関係を維持するため、ツムラのCSR活動の企画・実施に参加 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産技術の確立 <p style="padding-left: 20px;">産地・生産者間の収量格差、発芽率が低いことによる欠株栽培技術に関する知識の不足。特に新規産地では収量</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 4 力強い高糖度トマト産地の確立(仁淀川町、佐川町、日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A コスモス ・ J A コスモストマト生産部会 	<p>が低い傾向 ⇒農業振興センター・山間試験室での実証試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規産地の育成 ・ ツムラとの連携体制の構築 <p>[目標(H27)]</p> <p>販売高: 5.1億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>販売高: 4.5億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培管理指導による栽培技術の向上 ・ 出荷販売計画の検討および出荷量確保のための個別支援、出荷データの分析 ・ 個別カウンセリングの実施 ・ 低収量農家の重点指導 ・ 光センサー等整備の検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低収量農家の重点的指導 ・ 光センサー導入等による集出荷体制の整備 ・ 新商品(消費者に選ばれる階級の商品)等の販路開拓のための、レシピの検討(トマト丼)、販売戦略の新たな展開
<p>「森の工場」などによる木材の増産体制の確立</p> <p>■No. 13 仁淀川流域における木材産業の振興(仁淀川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林組合 ・ 林業事業体 ・ 素材生産業者 ・ 製材業者等 	<p>[目標(H27)]</p> <p>素材生産量: 6.3万m³</p> <p>[H25到達点]</p> <p>素材生産量: 5.5万m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業説明会を開催し新たな補助事業等の周知を徹底 ・ 増産に取り組む「森の工場」の事業体等の把握 ・ 森林経営計画作成の支援 ・ 製材工場の整備支援 ・ 竹炭や木材の販売強化に向けて産振アドバイザー制度を導入(仁淀川森林組合) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 増産に向けた体制づくりを的確に進める必要がある。 ⇒林業事業体の増産能力や体制づくりの具体的な進捗状況を把握するなど、事業体等との情報共有を図りながら取組を進める。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>「宇佐のうるめ」の消費拡大</p> <p>■No. 15 うるめのブランド化(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業組合宇佐もん工房 	<p>[目標(H27)]</p> <p>うるめ商品の販売額：1億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>うるめ商品の販売額：5,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～2月の売上が、約44,687千円(前年比136%) ・土佐市内の飲食店が参加し、うるめを活用したメニューを提供する「一本釣りうるめ祭り」を開催(4月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度売上目標5,000万円の達成に向けて販路拡大が課題 <ul style="list-style-type: none"> ⇒積極的に見本市等に出展を行うとともに、新商品開発等に取り組み、販路拡大を目指す。 ・売上の増加に伴い原材料である、うるめの確保が必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒漁業者との良好な関係を継続し、増産に対応する。
<p>「土佐和紙」の販売の促進</p> <p>■No. 16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承(土佐市、いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙協同組合 ・高知県製紙工業会 ・いの町商工会 ・i-nos.net 他 	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐和紙の販売額：6.6億円(現状の確保)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐和紙の販売額：6.6億円(現状の確保)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねんりんピックのおもてなしグッズとして土佐楮100%の手すきはがきを制作・納品 ・手すき和紙職人の販路拡大を支援(地域需要創造型等起業・創業促進事業(創業補助金)の導入) ・いの町商工会が、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業を活用して、中心市街地活性化のためのプランを策定する中で、紙の博物館を拠点として「紙の町」をPRしていくことを検討中 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙職人の高齢化が進み、販路拡大のための営業活動が不十分となっている。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒手すき和紙協同組合等と連携し、首都圏の美術大学や高級雑貨店等をターゲットに、版画・日本画の用紙や文房具等としてPRやセールス活動を行う。 ・土佐和紙の伝統や工芸品としての魅力をPRする支援にとどまっているため、製紙業全般についての支援が必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒フォローアップ会議に新たに製紙工業会からの委員を加え、業界と情報共有を図りながら、見本市の出展など支援策の検討を行う。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>・来年度開催予定の高知国際版画トリエンナーレ展やH27年に30周年を迎える紙の博物館の記念事業を契機とした販路拡大の取組強化</p> <p>⇒作品出展者等への版画用紙の見本帳の配布や会場での版画用紙の販売等を通じて、土佐和紙の認知度アップを図る。また、紙の博物館30周年記念事業については、いの町商工会の策定する中心市街地の再生に向けたプランとも連携を図り、集客力アップにつながる事業を検討する。</p>
<p>仁淀川流域の広域観光の推進</p> <p>■No. 25「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進（仁淀川地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川地域観光協議会 ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村 ・いの町観光協会 ・越知町観光協会 ・さかわ観光協会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：730人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：56,000人 主要観光施設の入込数：140,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：2,500人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：54,000人 主要観光施設の入込数：138,000人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～2月の仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数が3,244人（前年比154%）と数字を伸ばしている。 ・屋形船仁淀川が1隻運航から3隻運航に増船されたことや、佐川町の牧野富太郎ふるさと館・浜口邸の落成など、新たな観光資源の充実が図られた。 ・昨年に引き続きカヌー、ラフティングといった川遊びのメニューが好調を維持している。 ・11月2～3日に広島で開催された高知フェアに参加し、仁淀川流域の物産・観光PRを実施 ・仁淀川流域6市町村の観光情報を盛り込んだパンフレットを年度内に作成予定 ・12月の臨時総会において、新たに「さかわ観光協会」の参加を承認 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版ふるさと雇用事業を活用しているが、H27年度からの財源確保が課題 ⇒市町村の財政負担や協議会の事業規模等について、幹事会や臨時総会等で継続して協議を行う。 ・ツアーの造成が進むことによって、現地でのアテンドや営業に向ける仁淀川地域観光協議会の人役が徐々に不足してきている。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>⇒関係市町村と連携を図りながらサポートに努める。</p> <p>・ツアーの造成数は順調に推移しているが、長期的に安定して誘客を行うためには、常に旅行会社やお客様に注目してもらえる楽しみ方の提案が欠かせない。</p> <p>⇒研修会等を通じて市町村や観光施設の担当者の意識の醸成を図る。また定例の担当者会で素材の持ち寄りを行う。</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 11 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本川きじ生産組合 ・庭先農家 ・いの町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,800羽</p> <p>[H25到達点]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,375羽</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県中小企業団体中央会をアクションプランのチーム会に招き、本川きじ生産組合の法人化を検討中(中央会の指導により課題の抽出・解決を行い、早期の法人化を目指す) ・関西の食鳥取扱会社との取引開始(1月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では、売上が冬期に集中しているため、通年で販売できる商品開発が課題 ⇒7~9月に産振アドバイザーを派遣しており、生ハムの新商品開発を行っている(現在、試作品段階であり今後、味の調整や、パッケージ方法、単価の検討などを行い、早期の商品化を目指す) ・安定した生産体制の構築 ⇒孵卵率・飼育状況の把握と改善のため、中央家畜保健衛生所と連携して指導を行う。また経営の安定化に向けた生産組合の法人化や、出荷羽数の増に向けた鶏舎増築等の設備投資の検討を行う。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 17 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・土佐市商店街活性化推進協議会</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>施設での販売額: 1.1億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>直販所の売上: 62,000千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年4月1日、集客施設「ドラゴン広場」がオープン ・ドラゴン広場の4~2月の来場者数が98,195人 ・ドラゴン広場の直販市の4~2月売上が39,033千円 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラゴン広場は、地域の産品販売、観光情報発信、地域住民のコミュニティの場といった役割を果たしているが、集客のための仕掛けづくりや、安定した施設運営のノウハウ獲得が課題 ⇒イベント企画・開催によって集客を進めるとともに、今後も積極的に産振アドバイザー制度等を活用して、店舗の魅力づくりや情報発信を進める。 ⇒商工会、JA、テナント、行政をメンバーとする経営改善の定例会を開催して、サービスの向上と売上増の検討と実践を続ける。 ⇒直販所の出荷者を増やすため、集荷の仕組み作りや出展の呼び掛けを続ける。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いの町 ・いの町商工会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>いの町商店街の空き店舗率: 20%未満 (H23 25.3%)</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>いの町商店街の空き店舗率: 21%未満</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザーを派遣して、商店街でのイベント「にほんブログ村七色ロード」の実施方法の改善、テーマの設定方法の検討を行った(7月21日にイベント「いの職人見本市」を実施)。 ・商工会が、いの町中心市街地の再生に向けたプラン策定を行うため、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業に申請を行い採択決定。年度内に策定するプランを基に、来年度から順次具体的な取組を進める予定 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の情報発信の拠点として昨年度オープンした「暮らしのかけ橋交流館なないろ」の効果的な運営 <ul style="list-style-type: none"> ⇒消費者と店主をつなぐ企画商品づくりや、PR活動の実施 ⇒「暮らしのかけ橋交流館なないろ」で実施するイベントや情報誌の充実を図る。 ・中心市街地再生のプラン策定については、実行性の高いものとするため、プレーヤーとなる事業者や住民の参加が重要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒「紙」、「職人」、「食」、「仁淀川」をテーマに設けた部会が中心となり、「誰が、いつ、何をやるかを」明確にしたうえで、取組を進める。
<p>■No. 19 地域産品を活用した冷菓等の製造販売(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)高知アイス 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>冷菓等の販売額: 4.37億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>冷菓等の販売額: 4.12億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振補助金を活用してリニューアルした直営売店が4月20日にオープン(4~2月売上11,529千円(前年比280%)) ・販路拡大を目指し、海外(シンガポール、香港、アメリカ、マレーシア)の商談会等に積極的に参加 ・マレーシアでの販路拡大を目指してハラール認証を取得

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20(株)フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進(仁淀川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)フードプラン ・仁淀川町 <p>■No. 24 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)エスエス 	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで冬期は閉店していた直営売店は、リニューアルに合わせて通年で営業する予定のため、季節に合わせた商品の開発が課題 ⇒蒸しパン、おしるこ、葛湯をメニューに追加済。今後もスイーツなど、夏期以外も販売できる商品開発に引き続き取り組む。 ・今後の需要拡大に対応した生産体制の強化 ⇒昨年度産振補助金を活用して、水道施設を改良しており、製造ラインをフル稼働することで増産に対応する。 ・目標の売上額達成に向けて、新たな販路拡大の取り組みが必要 ⇒海外販路の拡大等に積極的に取り組み、H27の目標額である4.37億円の売上達成を目指す。 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売額：4.0億円 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売額：4.9億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザーを派遣し、財務状況や売上目標、投資規模、加工施設の機能、組織運営等を検討。今後、経営計画の策定に向けて、カット野菜事業や新たな加工品づくりについての経営戦略のアドバイスも受ける予定。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現施設でのカット野菜の生産能力が限界に達しており、生産規模の拡大を検討中であるが、投資規模が大きくなることが予想され、財源確保が課題となる。 ⇒企業において、財務面からみた借入限度額や設備投資を実施するための財務環境に係る資料を作成するとともに、金融機関の融資に対応できる詳細な事業計画の作成を検討する。 ⇒平成26年度にステップアップ事業を活用して、経営コンサルタントの参画によって経営方針、経営計画の策定を行う予定 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売額：9,000万円 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売額：4,000万円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日産400ケースを目指した生産体制の調整

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 32 歴史的風致維持向上計画の推進(佐川町)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・佐川町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・OEM先であるアース・バイオケミカル(株)を訪問し、関係の維持と販売促進を要請(副知事、日高村、地域本部) ・OEM先と連携した販路の拡大 ・OEM先から原料・製品をストックする倉庫の確保について協力要請 ・海外での販路拡大としてシンガポールでの展開の支援についてOEM先を訪問し情報交換(地産地消・外商課) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OEM先の販促による製品の売上向上や製造コスト削減の取り組みが重要 ⇒OEM先の情報を得ながら、フル操業に向けた協議を進める。 ⇒OEM先から国内3工場の製造ラインをエスエス社に集約するとの決定がなされ、日産350ケース前後を供給している状況。今後も、海外への輸出拡大を含むOEM先の販売促進の取り組みに合わせ、安定的な供給に取り組む。 ⇒原料・製品倉庫の確保の目途が立ち、26年度からの利用に向け整備を進める。 <p>[目標(H27)]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：5,000人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点等整備補助金を活用して牧野富太郎の生家を復元整備し、富太郎ゆかりの資料展示施設「牧野富太郎ふるさと館」としてオープン(4月24日) ・観光拠点等整備補助金を活用した浜口邸の改修整備を完了し、一般開放(8月1日) ・さかわ観光協会発足(4月1日)、法人化(9月20日) ・牧野公園植栽のための苗を住民参加型で育苗、植栽 ・仁淀川地域観光協議会による旅行会社へのセールス ・まち歩き観光ガイド(NPO 佐川くろがねの会)利用者数の増加(H23年度：484人→H24年度：1,339人、H25年度4～2月：2,643人) ・観光拠点等整備補助金を活用して移築整備を行っている江戸時代の私塾「名教館」整備後の体験メニューづくりに向けて、方言を学ぶ「土佐ことば研修」を実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街なみ環境整備の推進

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 35 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進(越知町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おち駅運営協議会 ・越知町観光協会 ・JAコスモス ・越知町 など 	<p>⇒浜口邸の物産販売、観光情報発信機能の整備</p> <p>⇒住民参加による牧野公園植栽計画の推進</p> <p>⇒さかわ観光協会が中心となって、佐川くろがねの会との連携により、歴史的町並みを活用した体験観光づくりを進める。</p> <p>⇒産振アドバイザー制度を活用し、町並みガイドの養成に取り組む。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>施設での販売額: 6,000万円</p> <p>体験メニューの造成: 6メニュー</p> <p>案内人養成数: 6人</p> <p>ラッピングインストラクター数: 8人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>施設での販売額: 6,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者である越知町観光協会の指定管理業務から物販業務を除き、物販業務を所管する「おち駅物販経営協議会」を立ち上げた。 ・カヌー、ラッピングの利用者増加(H23年度;カヌー59人、ラッピング161人→H24年度;カヌー282人、ラッピング530人、→H25年度;カヌー840人、ラッピング998人) ・横倉山案内人養成講座の開催(11/9) ・横倉山案内人養成講座先進地視察研修(12/18) ・カヌー、ラッピングの基地整備に向けて越知町と観光協会が協議中(H26年度の整備を予定) ・体験型観光ワークショップの開催(1/24、2/7、3/11、19) ・体験型観光先進地視察研修の実施(2/11) ・カヌー、ラッピングガイド養成講習会の開催(3/15、16) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物販販売体制の強化 ⇒おち駅物販経営協議会において月次単位で販売動向の分析等を行い、販売現場の状況を反映したタイムリーな売上向上に取り組む。 ⇒産振アドバイザーの指導を活かし、POSシステムデータを活用した商品別・生産者別の売り上げ状況の分析や出荷者へのフィードバックの取り組みを進める。 ⇒産振アドバイザーの指導を活かし、POPの活用や商品の並べ方等による客単価の向上など、顧客目線のサービス提供に取り組む。 ⇒年間の売上状況を提供することで計画的な栽培・出荷を促進していく。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 36 直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・日高村</p>	<p>⇒会員の加入促進により商品の確保に取り組む。</p> <p>・体験観光メニューの充実</p> <p>⇒横倉山案内人養成講座を開催することにより、地域資源を活かした体験型観光のメニューを充実させる。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>体験型観光入込客数：23,500人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験型観光入込客数：15,700人</p> <p>[取組状況]</p> <p>・県産振補助金を活用した直販所「さんさん市」のリニューアルは、本体工事の入札を26年3月中に行う予定であり、10月末までの完成を目指している。</p> <p>・集荷の実施と生産者への出荷要請</p> <p>・店舗責任者の農業創造セミナーへの参加</p> <p>・産振アドバイザー制度を活用し、運営体制の整備、PRやイメージ戦略の策定等、リニューアルオープンに向けた準備を進めている。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・品揃えと販売の仕組みの磨き上げや、運営主体の経営・営業体制の強化が必要</p> <p>⇒商品確保に向けた生産者への周知、出荷者の増、集荷体制の確立を進める。</p> <p>⇒運営組織の法人化が決定し、引き続きアドバイザーの助言を得ながら、法人設立並びに売上向上及び安定した運営のための準備を進める。</p>
<p>■No. 37 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・日高村</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>体験型観光入込客数：23,500人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験型観光入込客数：15,700人</p> <p>[取組状況]</p> <p>・5月から屋形船を1隻から3隻に増やして運航(乗船者数；H24年度1,785人(5/6～)、H25年度4～2月3,133人)</p> <p>・屋形船仁淀川運航1周年記念イベント開催(5/3・4・5の乗船者数391人)</p> <p>・仁淀川地域観光協議会による旅行会社へのセールス</p> <p>・屋形船の発着場周辺の整備計画について協議</p> <p>・発着場に近接した河原への遊歩道等の整備について協議</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・観光の視点だけでなく、地域の実情に沿った拠点施設の整備が必要</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒役場内でのプロジェクト会議による検討や、地域住民との話し合いによる合意形成による施設整備を進める。 ・集客力の向上 ⇒モニターツアーによる課題整理や、村内の他の観光資源と連携したパッケージでの磨き上げを行う。 ⇒「屋形船仁淀川・お花見・シュガートマト収穫体験プラン」を造成し3/16～4/20限定で実施する。 ⇒村内の観光資源PRのための媒体を作成 ⇒屋形船のホームページやブログを再構築して情報発信の強化を検討する。 ⇒屋形船の増船について、日高村役場、日高村商工会、仁淀川漁協と協議中

2 平成25年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 36 直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村) ※審査会 4/16 交付決定 6/5	直販市「さんさん市」を拡充して販売量を増やすことで農家所得の向上を図る。また、村内の商工業製品を販売する物産館の機能を持たせることで、村内商工業者の商品販売による地域経済の活性化を図る。	136,530 (50,000)

3 県民参画に向けた取組

- ・日高村行政連絡協議会で中山間対策(集落活動センター)の説明(4/21)
- ・越知町区長連合協議会で、産業振興計画シンポジウムのPR、中山間対策(集落活動センター)の説明(4/26)
- ・仁淀川流域交流会議で産業振興計画シンポジウムのPR(5/13)
- ・越知町商工会総会で土佐MBAの紹介、産業振興計画シンポジウムのPR(5/21)
- ・佐川町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/22)
- ・日高村商工会総会で土佐MBAの紹介、産業振興計画シンポジウムのPR(5/23)
- ・土佐市商工会総会、いの町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/24)
- ・いの町観光協会総会で県の観光動向、仁淀川流域への入込等について説明(5/29)
- ・商品開発や経営改善を目指す事業者等への土佐MBAの紹介(3件)

4 相談案件：16件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/4	和紙製品	手すき和紙製品の販路拡大
2	4/11	食品加工	ねぎを活用した加工製品の開発
3	4/22	食品加工	ゆず飲料用の県産ゆずの確保、非常時用の備蓄水の確保
4	4/23	茶生産者	茶の販路拡大
5	5/9	食品加工	県産の素材を活用した飲料商品の生産体制強化
6	6/7	地域活性化	中心市街地再生のための事業計画作り
7	6/21	健康福祉	食を通じた健康作り、介護予防
8	6/27	食品加工	県産の生姜を活用したスイーツ作り
9	8/5	製造業	竹炭製造、汚泥等を活用した固形燃料の生産
10	8/14	食品加工	山椒を活用した加工製品の開発
11	9/26	食品加工	県産の畜産加工物の生産拡大
12	9/27	食品加工	茶を活用した加工食品の販路拡大、法人化の検討
13	10/31	食品加工	県産野菜を活用したスイーツの開発
14	11/6	観光	土佐市宇佐町の観光振興
15	12/11	食品加工	地元産野菜を活用した加工食品の開発、販売
16	2/20	食品加工	生姜を活用した加工製品の製造、販売

高幡地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 3 . 2 0

高 幡 地 域 本 部

1 地域アクションプランの第4四半期の実施状況（総括）

(1) 総評

高幡地域を牽引するAPとして位置づけている海洋堂ホビー館と満天の星を中心に様々な取組が動き出し、AP事業主体の意識が高まるとともにこれまでの取組の浸透により新たな動きが始まり、H26年度から5つのAPが新たに加わる予定となっている。

AP事業主体の意識が高まっているものの代表が、「けんかま」が取り組むシイラ加工食品の生産拡大で、これまで産業振興アドバイザー事業や農商工連携事業を活用して取り組んだ結果、大きな販売先を獲得し、全国的に練り製品業界が厳しい状況の中、一定の売上を確保している。このことが職員の意識向上にもつながり新たな商品開発など更なる飛躍を目指して取り組んでいる。

課題があきらかになった事業主体や新たにAPを目指す事業主体には、産業振興アドバイザー制度を積極的に活用し課題解決などに取り組んでいる。

また、産業振興総合補助金やステップアップ事業を積極的に活用し、目標達成に向けた取組を進めている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>まとまりのある産地づくり</p> <p>■No.1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上（須崎市、中土佐町、津野町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐くろしお ・JA四万十 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>主要農産物販売額：H27 園芸年度 55 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>主要農産物販売額：H25 園芸年度 53.8 億円</p> <p>[取組状況] (2月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地検討会、目慣らし会等 (67回開催) ・栽培及び低コスト現地実証ほの調査・検討 (61ヵ所) ・IPM技術実証圃の調査・検討 (31ヵ所) ・排液及び循環型処理装置の実証・検討 (11ヵ所) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>栽培技術の定着化</p> <p style="padding-left: 20px;">⇒実証圃の調査・検討の継続実施</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 中山間地域での持続可能な農林業経営の確立(梶原町、津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 津野山 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>農協取扱主要品目売上: 5.9 億円 所得 400 万円以上の農家数: 5 戸</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>農協取扱主要品目売上: 5.3 億円 所得 400 万円以上の農家数: 4 戸</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培指導 <p>栽培講習会 11 回、現地検討会 9 回、実証圃・モデル園設置 6 カ所、個別巡回指導等 89 回 (2 月末実績)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>平坦地なみの所得をあげるための進捗管理 ⇒個別巡回指導等の継続実施</p>
<p>■No. 3 基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化(四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 四万十 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ニラ販売金額: 10 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ニラ販売金額: 9.3 億円</p> <p>[取組状況] (3 月末実績見込)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地検討会等の開催 <p>ミョウガ 7 回、ピーマン 7 回、ニラ 23 回、露地ショウガ 9 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A と連携した品目別経営分析説明会の開催 <p>11 品目 (ミョウガ、ピーマン、ニラ、キュウリ、アスパラガス、ショウガ、水耕切り、イチゴ、葉がき、インゲン、花き)</p> <p>参加率 57%</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>収量・品質の向上</p> <p>⇒こうち新園芸システムと連携した取り組みにより、現行栽培技術の検証と新たな技術組立による更なる収量・品質向上</p>
<p>森を活かす取組</p> <p>■No. 14 「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用(中土佐町、四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十町森林組合 ・ 須崎地区森林組合 ・ 四万十町内製材業者 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>四万十ヒノキのブランド品販売</p> <p>: 原木 9,000 m³、製品売上高 2.7 億円</p> <p>F S C 等森林認証面積: 5,700ha</p> <p>F S C 認証材製品売上高: 20 百万円</p> <p>J A S 認定工場: 1 社増設</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>四万十ヒノキのブランド品販売</p> <p>: 原木 7,000 m³、製品売上高 2.5 億円</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 15 循環型社会の構築を促進するための 森林資源の有効活用(梶原町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町森林組合 ・梶原町 ・ゆすはらペレット㈱ 	<p>F S C等森林認証面積：5,644ha F S C認証材製品売上高：10百万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外商活動延べ280回(県内140回、県外140回) (1月末実績) ・製品売上高2.10億円(1月末実績) うちF S C製品8.1百万円 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客のニーズに応じた商品の開発・改良 ⇒アンケート等を実施して、商品の問題点等を検討 <p>[目標(H27)]</p> <p>木材生産量：5,000 m³ 認証材の販売量：1,600 m³ ペレット原材料の調達：3,900t ペレット生産量：1,700t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>木材生産量：2,800 m³ 認証材の販売量：1,400 m³ ペレット原材料の調達：3,900t ペレット生産量：1,700t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業活動延べ98回(県内50回、県外48回) (1月末実績) ・ペレット生産に関する協議(39回)(1月末実績) ・認証材販売量1,201 m³(1月末実績) ・ペレット生産量1,380t(2月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・F S C認証材の知名度の向上 ⇒営業活動の充実
<p>■No. 16 「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進 (梶原町、津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J A津野山 	<p>[目標(H27)]</p> <p>乾燥シイタケの販売量：11t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>乾燥シイタケの販売量：8.9t</p> <p>[取組状況]</p> <p>県椎茸品評会への出展(5月) 全農全国椎茸品評会への出展(6月11日～13日) 椎茸生産部会 小部会(億産会)の開催(8月3日、26日) 乾椎茸格付共販事業運営委員会の開催(8月7日)</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>産振アドバイザーによるしいたけを使った料理講習会の実施(2月22日)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>1億円産業に向けた戦略の策定 ⇒JA担当者や生産者部会と協議</p>
<p>地域の特産品を活用した商品づくり</p> <p>■No. 22 シイラ加工の生産体制の強化 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町 ・興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合 ・興津漁協 <p>■NO. 23 シイラ加工食品の生産拡大 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)けんかま <p>■NO. 27 「中土佐のうまいもん食わしちやお」 商品開発プロジェクト(中土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画・ど久礼もん企業組合 	<p>[目標(H27)]</p> <p>加工品販売金額: 15,000千円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>加工品販売金額: 15,000千円</p> <p>[取組状況]</p> <p>通常総会開催(5/30)</p> <p>商談(5件)、取引開始(2社)、イベント販売(3回)</p> <p>加工品販売金額: 12,230千円(2月末)(前年比106%)</p> <p>従業員の常勤雇用(6月から2名)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>安定的な原魚の確保及び経営管理、生産体制の強化 ⇒原魚の不足時における他所からの購入</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>フィレ取扱数量: 34t</p> <p>[H25到達点]</p> <p>フィレ取扱数量: 25t</p> <p>[取組状況]</p> <p>こうち農商工連携事業によるアドバイザーの招聘(12回)</p> <p>フィレ取扱数量: 17.0t(2月末実績)</p> <p>シイラを使った竹輪の売上 2,334,030本 84,623千円(2月末実績)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>競合他社製品との差別化を図る仕掛け ⇒量販店との商談など営業力の強化</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>開発する商品数: 5商品</p> <p>売上高: 28,000千円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>開発する商品数: 2商品</p> <p>売上高: 28,000千円</p> <p>[取組状況](1月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発(かつおレアステーキ、海鮮丼のたれ)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ取材等によるPRの実施(11回) ・ファーストフード店のリニューアル(8月) 名称変更:市場食堂どく礼もん ・商談会への出展(3回) ・イベント等への出店 カツオのタタキ体験(8回) 焼きラーうどん(8回) <p>[課題と今後の対応] 生産体制の強化 ⇒町の整備計画との連携</p>
<p>6次産業化への取組等による拠点ビジネス</p> <p>■No. 29 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとセンター ・津野町 <p>■No. 30 四万十町拠点ビジネス体制の強化 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川 ・四万十町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>高知店販売額:90百万円 総販売額:162百万円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>高知店販売額:90百万円 総販売額:156百万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工所・アンテナショップ満天の星 売上高:177,935千円(2月末)(対前年比:95.7%) ・販売会議・経営会議・直販所連絡会・満天の星定例会での 売上高の分析・改善強化などを実施 ・直販所(6ヵ所、満天の星直販部門含む) 売上高:127,718千円(1月末)(対前年比99.0%) ・高知店等23年度改善計画対応検証会(12/9) <p>[課題と今後の対応] 高知店、直販全般の戦略見直し ⇒外部専門家に委託し、販売戦略を再構築する</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>地域産品・土産品等の磨き上げ及び新商品開発 :5品目以上</p> <p>道の駅あぐり窪川販売金額:4.2億円 アンテナショップ販売金額:4.5千万円 常勤雇用者数:3名</p> <p>[H25到達点]</p> <p>地域産品・土産品等の磨き上げ及び新商品開発 :5品目以上</p> <p>道の駅あぐり窪川販売金額:3.5億円 アンテナショップ販売金額:4.3千万円 常勤雇用者数:3名</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町拠点ビジネス運営協議会(2月末実績) <ul style="list-style-type: none"> 総会1回 担当者会3回 生産者会3回 事務局会12回 販促イベント7回 ・道の駅めぐり窪川 売上高:255,978千円(12月末実績 対前年比119.7%) ・アンテナショップ しまんとマルシェ「四万十の蔵」 売上高:36,382千円(2月末実績) ・アンテナショップのリニューアル(12月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>情報発信機能の充実 ⇒産地とアンテナショップとの定期的な交流</p>
<p>中心市街地の賑わいづくり</p> <p>■No.24 須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業(須崎市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・須崎市まち全域がサービスエリア構想推進委員会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>街角ギャラリー来場者数:1万人 日・木曜日出店者:80店 携帯サイトアクセス数:10,000千件</p> <p>[H25到達点]</p> <p>街角ギャラリー来場者数:4,000人 日・木曜日出店者:60店 携帯サイトアクセス数:6,000千件</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街角ギャラリー、旧三浦邸に地域おこし協力隊を導入 ※街角ギャラリー来場者数:5,668人(2月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新たなまちづくり ⇒須崎未来塾での検討</p>
<p>滞在型、体験型観光の推進</p> <p>■No.31 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備(須崎市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市観光協会 ・NPOすさきスポーツクラブ 	<p>[目標(H27)]</p> <p>民泊受入世帯数:100世帯 教育旅行受入数:10,000人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>民泊受入世帯数:100世帯 教育旅行受入数:5,000人</p> <p>[取組状況](2月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民泊の訪問実績:563軒 ・教育旅行の受入:5,171人 ・民泊受入世帯数:11軒増加、合計58軒 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>民泊受入世帯の増加 ⇒受入世帯100世帯に向けた営業活動の実施</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■NO. 32 中土佐町の地域資源を活用した体験型観光の推進(中土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>体験受入数: 2,300人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験受入数: 1,900人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上ノ加江漁業体験PR (高知市、南国市の小学校9校、高知市老人クラブ連合会等) ・上ノ加江漁業体験の実施: 34回 参加人数785人 (2月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>体験メニューの充実と人材育成 ⇒観光物産センターや施設等との連携強化</p>
<p>■No. 33 梶原町の体験型・滞在型観光の推進(梶原町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町商工会 ・梶原町 ・松原まろうど会 ・坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>宿泊者数: 8,500人</p> <p>施設利用者数: 97,500人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>宿泊者数: 8,300人</p> <p>施設利用者数: 90,000人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「梶原千百年物語り」情報発信拠点オープン(4/7) ・愛媛県へのイベント参加によるPR 4/20～21 砥部焼まつり ・ゆすはらの休日 グルメフェスタ in 梶原(9/22) 約15,000人来場 ・主要宿泊施設宿泊者数: 7,449人(対前年比: 99.2%) (1月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>予想を大幅に上回る来客があったグルメフェスタ in 梶原での周辺道路渋滞や早期の売り切れへの対応 ⇒駐車場への適切な誘導等</p>
<p>■No. 34 清流と風と歴史に会えるまち津野町 まるごと体感!～観光集客アップ作戦～ (津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>主要宿泊施設年間宿泊者数: 9,800人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>主要宿泊施設年間宿泊者数: 9,500人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新茶PR・津野町ふれあい特産市、関連イベント(4回) ・各種イベントの開催(19回) ・県外向けラジオPR(24回) ・主要宿泊施設宿泊者数: 9,382人(対前年比: 107.3%) (2月末実績)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■NO. 35 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>冬場の集客方法 ⇒星空や雪のセラピーロードなどを中心に検討</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>ホビー館の1年間入場者数：50,000人 常勤雇用者数：3人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ホビー館の1年間入場者数：50,000人 常勤雇用者数：3人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 62,237人(2月末実績) 前年同期比 93.2% ※のべ入館者数：212,079人(H23.7.9～H26.2.28) ・企画展開催：8回 「エヴァンゲリオンフィギュアワールド」3/16～5/27 「本格的な美少女ディープフィギュアの世界」6/8～9/30 「打井川のお宝展」3/16～4/15 「土佐模型クラブジオラマ展」4/20～6/10 「土佐の海」7/6～9/16 「四万十町木工作品展」9/21～11/4 「四万十町の中平親子三人展」11/16～12/23 「上田忠明のプラモ展」11/2～2/24 ※海洋堂かっぱ館入場者数 32,967人(2月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋堂ホビー館を拠点とした滞在型観光の仕組みづくり ⇒観光協会や地元団体等との連携強化

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 12 滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり(四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町 ・営農支援センター四万十(株) 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>施設稼働率：90%</p> <p>移住者数：15 組</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>施設稼働率：90%</p> <p>移住者数：8 組</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラインガルテン四万十の入居状況 滞在型 22 棟 うち全棟入居 日帰型 16 区画 うち利用 15 区画 (2 月末) ・お試し滞在住宅運営状況 大正中津川 4 組 (2/12~4/11、5/13~8/2、8/9~10/25、10/29~1/28) 広井 5 組 (4/22~6/10、6/13~7/25、8/29~9/28、10/25~1/24、3/1~3/31) ・移住相談窓口での相談件数 120 件 (3 月末) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の移住に繋がる仕組みづくり ⇒地域住民との交流促進、サポート体制の整備
<p>■NO. 21 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進(中土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>商品販売高 25,000 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況] (2 月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光物産センターを事務所移転し、情報発信機能を強化 ・観光キャラクターを活用した PR 活動 14 回 ・「ぴんぴん鯉のタダキ」をイベントで PR：東京、大阪各 2 回 香川、京都各 1 回 ・水産物加工施設整備に係る作業検討会の実施：18 回 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産加工場の整備と事業の構築 ⇒漁協等との連携強化

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 11 四万十の栗再生プロジェクト (四万十町)	・お茶栗カフェ兼加工場の整備	40,110 (18,400)
■No. 21 中土佐町地域ブランドの創出と販売 促進(中土佐町)	・中土佐に水揚げされる高鮮度の水 産物を加工販売する加工場の建設	49,909 (33,272)
■No. 38 葉にんにくを活用した加工食品の生 産・販売の拡大(須崎市)	・葉にんにくのぬたを主とする製品 の生産に必要な施設の整備	4,725 (2,250)
■No. 8 直売所・農家レストランを核とした「地 消地産」の推進(四万十町) ※ステップアップ事業	・直売所及び農家レストランの基本 コンセプトの作成	1,890 (900)
■NO. 19 浦ノ内産養殖マダイの販路拡大(須崎 市) ※ステップアップ事業(水産振興部対応)	・HP作成、販促資材作成等	1,020 (486)
■NO. 39 梶原産キジ肉の生産・販売の拡大 (梶原町) ※ステップアップ事業	・キジ肉の熟成試験、販売資材作成 等	1,741 (870)
■No. 8 直売所・農家レストランを核とした「地 消地産」の推進(四万十町) (農業振興部対応)	・「みどり市」の改修と「しまんとキッ チン」の新設	111,597 (50,000)
■NO. 40 県産竹材を活用した加工品づくりの ための竹材の安定供給(須崎市) (林業振興・環境部対応)	・レクサスの竹ハンドル生産のため の竹材の安定供給に必要な機器整 備	14,364 (9,119)

3 県民参画に向けた取組

○産業振興計画シンポジウムの案内

- ・津野町広報誌での案内
- ・地域アクションプラン事業者への案内
- ・地域団体への案内

○土佐MBAへの参加の働きかけ

- ・(株)満天の星、JA四万十女性部、打井川地区会食部会、アースエイド など

○須崎市の農業を考える会でのPR

4 相談案件：17件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/17	農業	さかなを使った肥料の開発について
2	4/24	観光	管理釣堀の設置について
3	5/15	食品加工	昆布養殖の産業化について
4	5/23	食品加工	加工場の整備の補助金について
5	5/30	食品加工	四万十川流域の安心安全な食材を使った加工品の販売について
6	6/4	商工	四万十町内へのホテル建設について
7	6/11	食品加工	葉にんにくのぬたの販売促進について
8	7/18	販売戦略	サンシャイン四万十を核とした四万十の地場産品の販売戦略について
9	8/12	林業	展示場の整備
10	8/14	観光	四万十生姜プロジェクト
11	9/26	水産業	種苗センターの活用について
12	10/4	林業	くろもじの活用について
13	10/11	林業	製炭事業
14	10/23	観光	大正温泉及び江師地域の活性化について
15	12/11	農業	落花生の生産、加工販売
16	12/19	商工	ままごとキッチンのPR等について
17	3/6	食品加工	新規創業について

幡多地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 3 . 2 0

幡 多 地 域 本 部

1 地域アクションプランの第4四半期の実施状況（総括）

(1) 総評

アクションプラン42案件は、これまでの積極的な補助金の導入やアドバイザー制度の活用により、農林水産物の加工分野の新商品の開発や販路の拡大等、事業者の地産外商に向けた意識が一層高まり、本年度も産業振興推進総合支援事業費補助金を活用して事業規模の拡大や拠点施設の整備に着手する案件があるなど、概ね順調に進捗している。

農業分野では、三原村のユズの産地化の取組が5年目を迎え、栽培面積の拡大が進むとともに、新たに新規就農者のための研修施設を整備し、農業後継者の育成やU・Iターンの受入にも取り組むこととしている。また、宿毛市では、洋ラン製品の集積化による販売促進に取り組んでいる。

林業分野では、森の工場が幡多管内で31地区認定され、作業員の継続的な就労と事業体の経営安定並びに作業道整備による生産性の向上が図られている。

水産分野では、昨年度整備した大月町の養殖種苗施設においてシマアジが出荷され、加工分野においても、宿毛市の民間事業者による加工施設の拡張整備が行われるなど、製造の拡大及び販売促進に取り組んでいる。

商工業分野では、幡多地域の東の玄関口となる黒潮町佐賀地域に、地域製品の販売や交流人口の拡大に取り組む新たな拠点施設の道の駅が完成し、4月14日オープンに向けて準備を進めている。販路拡大に関しては、大阪「土佐の宴」に5社、スーパーマーケットトレードショーに7社、フードテックジャパンに4社が出展し、積極的な外商活動に取り組んだ。

観光分野では、地域が一体となって半年間開催されてきた「楽しまん！はた博」が終了した。開催期間を通じて、地域の連携の強化や誘客促進の意識が高まったことから、今後は、民間団体の参画の仕組みなどを取り入れて、イベントや体験プログラムのブラッシュアップなどを行いながら、誘客に向けた継続可能な体制づくりに取り組むこととしている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>安定した農業経営体づくりと地域に根ざした有望品目づくり</p> <p>■No.1 水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成(幡多地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA高知はた</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>・販売額1,500万円以上の農業経営体 10経営体</p> <p>[H25到達点]</p> <p>・3経営体</p> <p>[取組状況]</p> <p>・大規模志向農家ネットワーク(8名→16名)構築、有望品目の検討</p> <p>・ブロッコリー大規模経営、栽培の研修会(6/14, 10/18)</p> <p>・大規模経営、有望品目の研修会(7/11, 9/6, 10/10・28, 11/6)</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 洋ランのブランド確立・流通促進事業 (宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 蘭遊 六志会 ・ 石田蘭園 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H25 には販売額 1,500 万円以上の経営体が 2→4 経営体 [課題と今後の対応] ・ ネットワークを活かした大規模農家の育成 ⇒品目別経営モデル、農家作業管理システムの周知 ・ 農地集積と雇用確保が課題(仕組みづくり) <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高 128,300 千円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高 108,600 千円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H25. 5. 27～6. 1 に蘭遊六志会が中国で販路開拓 ・ 産振補助金の採択通知 (H25. 8. 20) ⇒集出荷施設(1式)と販売促進事業(1式) ⇒集出荷施設(入札 10/28、工期 11/1～2/28) ・ 蘭遊六志会(6名) ⇒IFEX(10/9～11)に出展 ⇒@豊明花き(愛知県 11/11)に出展(契約 1,000 万円) ⇒11月15日「めざましテレビ」スタジオを蘭遊六志会の花で演出 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 販路の開拓 ⇒HP及びネットショップの立ち上げ
<p>■No. 4 三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築(三原村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (財)三原村農業公社 ・ 三原村 ・ J A高知はた 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユズ栽培面積 50ha、果実生産量 400t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユズ栽培面積 37ha、果実生産量 120t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと雇用事業 5名、緊急雇用事業 11名(JA8名+公社 3名)、起業支援型 3名雇用 (公社職員 H24:11名→H25:14名) ・ 栽培面積が 35ha に拡大(内、公社 16.6ha)、H25 生産量 116t ・ ユズの青果出荷率向上対策(共同選果施設の導入検討) ・ 第 2 期ユズ産地化計画の策定(H25:35ha→H27:50ha) ・ 研修施設整備で後継者育成 ⇒農業大学、農業振興センターと連携開始 ・ 農業公社が販路を開拓→J Aに共同出荷(連携)を打診 ⇒三原村全域の販売許可を受ける ⇒ユズ加工(新商品「ユズゆうべし」の試作開始)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 7 有望品目への転換を含めた、大方南部地域の産地再生(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町 ・JA高知はた 	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ産地拡大と後継者育成 ⇒ 青果率向上(現状:10%→目標:農業公社出荷40%) ・獣害(シカ、ウサギ等)の被害対策(防護柵等)の必要性 ・共同選果機、搾汁・加工施設の導入(H26~27整備予定) <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花き栽培面積15ha ・野菜栽培面積6ha <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花き栽培面積18ha ・野菜栽培面積3ha <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある園芸産地活性化事業による、点滴灌水実証圃2戸(カスミソウ・ニラ)の継続実施 ・用水対策現地調査(5月~6月各1回)と関係機関の協議を継続 ・特に水不足の状況にある2地区のうち、「中の谷・ヤリガサヤ団地」については、用水関係者から合意を得られたため、H26~28年度に補助事業を活用して用水確保のハード事業を推進予定で、「カタギヤ団地」は継続協議 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>南部地域は慢性的な水不足であり、水源地(用水量)の確保を最優先に協議</p> <p style="padding-left: 20px;">⇒地権者協議(水源対策等)、地元負担協議</p> <p style="padding-left: 40px;">点滴灌水実証圃の検証、点滴栽培に向けたマニュアルの作成</p>
<p>■No. 21 直七の生産、加工、販売の促進(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合 ・直七の里(株) 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量100t <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量70t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で1名を雇用 ・取引企業者数約100社(商談中含む) ・新商品(直七カクテル:田野町濱川商店)の試飲会 7/7:てんこす、宿毛市椰子、7/5~7:まるごと高知 ・直七収穫ツアー(10/13~14)と「宿毛花火見学(10/13)」 ・H25収穫量(栽培本数21,000本)は101.5tで、H27目標を達成し、搾汁も39.7t(H24対比157%)に増加

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 27 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)しまんと美野里 ・四万十川を良くする会 ・四万十市 ・西土佐商工会 	<ul style="list-style-type: none"> ・直七真鯛の開発(すくも湾漁業協同組合と連携) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搾汁施設の稼働率向上 ⇒直七以外の搾汁を実施 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 8t ・原材料(生栗)の仕入量 12t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 6t ・原材料(生栗)の仕入量 10t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品新サービス開発支援事業(全国商工会連合会)を導入し、アドバイザーの招聘、新商品(パウダー)の完成・販売(7社) ・生栗仕入:約7t ・県内企業を主体とした営業活動により、製品ベースで4tを受注(40社、納品済3.3t) ・起業支援型地域雇用創造事業により1名を雇用(12/1~) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料の確保 ⇒集荷の継続実施 出荷まで至っていない栗の発掘(新規開拓、栽培管理、収穫支援等) ・新商品の販路開拓
<p>森林資源の活用促進</p> <p>■No. 8 森の工場・間伐の推進(幡多地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の認定を受けた事業体 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の木材生産量 20,000 m³ <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の木材生産量 20,000 m³ <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場を新たに5工場設立(計31工場) ・木材生産量:A・B材 7,768 m³、C材 2,535 t <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材価格の低下(特に檜材) ⇒作業効率の向上(作業道路整備、高性能機械の導入)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 10 「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進（四万十市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十市 <p>■No. 11 町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業（大月町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大月町備長炭生産組合 	<p>[目標 (H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「四万十の家」 着工戸数 30 戸 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「四万十の家」 着工戸数 25 戸 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十市産材利用促進事業の継続実施（受付件数 38 件） ・ 四万十ヒノキブランド化協議会総会（7/23） ・ イベント出展（11/2 もくもくランド、11/10 幡多もりフェス） ・ 長伐期研修会の開催（10/15） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>四万十ヒノキのPR強化</p> <p>⇒四万十ヒノキブランド化協議会での検討及び各種イベントへの参加</p> <p>[目標 (H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 備長炭販売量 240t、生産窯 20 基、生産者 20 人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 備長炭販売量 107t、生産窯 9 基、生産者 9 人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産振補助金により、新たに製炭窯（4 基）が H25. 2 月に完成（計 7 基）、製炭者 8 名で稼働中。 ・ ふるさと雇用事業で 1 名、緊急雇用事業で 1 名を雇用 ・ 下級品の販路拡大（枕メーカーに納入） ・ 製炭窯の稼働率及び生産性の向上と原木確保 ⇒6 月下旬から組合員 8 人で全窯（7 基）の稼働開始 H24 売上額＝4,450 千円→H25 (4-1)＝21,382 千円 ⇒原木山と伐採人役を確保（生産量の向上） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織体制の強化 ⇒大月町備長炭生産組合を法人化
<p>安定した漁業生産を目指す取組</p> <p>■No. 15 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業（宿毛市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (株) 沖の島水産 	<p>[目標 (H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高 11,700 千円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高 50,000 千円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「目指せ弥太郎商人塾：白井クラス」で H25 受講中 ・ 産振補助金の採択通知（H25. 7. 1）

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20 大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大(大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大月町 ・(株)山崎技研 	<p>⇒水産加工施設整備(1式):5月末に繰越</p> <p>⇒販路開拓、販売促進事業(1式)</p> <p>⇒ホームページの開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品売り上げ ⇒H25.7月～H26.1月:25,250千円(対前年対比118%) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ⇒「目指せ弥太郎商人塾:白井クラス」でH25受講中 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダイ100万尾、シマアジ50万尾 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダイ40万尾、シマアジ30万尾 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出10名(常勤4名、臨時6名:H26.2月時点) ・産振補助金により、マダイ、シマアジ等の海上育苗施設を整備 ・シマアジ特大サイズ13.1万匹出荷(H25.8月末) ・H24にイサキ30万匹、H25には40万匹をすくも湾へ放流、H24にノコギリガザミ4,200匹、H25には9.7万匹を浦戸湾等へ放流。 ・H25.12末、H24産人口カンパチ648匹(親魚候補)を古満目事業所に搬送飼育中(成長は天然産と比べても遜色なし) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種苗の安定生産とカンパチの種苗技術確立 ⇒県の水産試験場と連携して技術確立を目指す(生残率が、H24:0.5%→H25:2.0%に向上) ⇒古満目の環境がカンパチの採卵、孵化の適地と判明(産卵誘発処理の必要なし→生残率向上の要因)
<p>■No. 34 カツオ文化のまちづくり事業(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町商工会 ・黒潮町 ・高知県漁協 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口16,000人 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口18,000人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮一番館の休館日(火曜日)の活用策として、漁協女性部による「びりびり市」の開催(1月末時点36回、延べ720人来場)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 14 民間企業との連携による水産物の販路拡大(宿毛市・大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくも湾漁業協同組合 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年から沖の島水産と連携した天然ブリ祭りが大好評で、H26は1ヶ月早い10月から商品作りを開始 ・春の鯛フェアで宿毛市をPR(系列店舗:3/7~5/15) ・タイ、イサキ等の粕漬けのセットをネット販売 ・売上は前年比101%で推移。(H25.6~1:1.22億円) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員の確保(22名:H26.2月) ⇒ハローワークで常時募集 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚供給高1.19億円 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚供給高1.03億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出(7名:H26.2月) ・鮮魚を使用した加工(惣菜)商品の製造出荷が順調 ・提携先店舗に加えて、新たなチェーン店(とり鉄等)にも取引開始 ・売上金額(4~12月):45,048千円(対前年度103%) ・工場はフル稼働の状況 ・高知県食品高度衛生管理手法の認定取得(H26.1.14) ・きび工房からの依頼で(水産物販売業者からブリ300尾/日のフィレ加工のオーダー)フィレ加工受注の方針 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚の安定確保 ⇒安価な時期に購入して冷凍保存(すくも湾漁協の新冷凍施設を活用)
<p>■No. 21 直七の生産、加工、販売の促進(宿毛市)(再掲)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合 ・直七の里(株) 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量100t <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量70t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で1名を雇用 ・取引企業者数約100社(商談中含む) ・新商品(直七カクテル:田野町濱川商店)の試飲会 7/7:てんこす、宿毛市椰子、7/5~7:まるごと高知 ・直七収穫ツアー(10/13~14)と「宿毛花火見学(10/13)」 ・H25収穫量(栽培本数21,000本)は101.5tで、H27目標を達成し、搾汁も39.7t(H24対比157%)に増加 ・直七真鯛の開発(すくも湾漁業協同組合と連携)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 22 地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)与力 ・幡多美味工房 	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搾汁施設の稼働率向上 ⇒直七以外の搾汁を実施 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 8 アイテム <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 10 アイテム <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域食材を使用した新商品開発と雇用の創出(起業支援型で1名雇用→計2名) ・オリジナルの商品(野菜ジャム:なす、かぼちゃ、トマト、キピナゴの燻製、ケンポロー豚の肉マン、ケンポロー豚串)を自社販売ルートで販売中 ・OEM生産(ゆずの塩だれ:JA高知はた) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売促進 ⇒県内外の量販店等で催事参加(4/6~2/24:45日)
<p>■No. 24 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業(土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)土佐清水元気プロジェクト ・土佐清水市 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)70人 ・地元農産物等の活用100t ・売上額2.5億円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)56人 ・地元農産物等の活用120t ・売上額1.8億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外等の催事での販促PR活動(東京2回、大阪3回、北海道1回、県内27回) ・商談会等(県内外)への参加9回 ・産業振興センターの経営革新計画支援事業の活用によるOEM生産の継続→10社、11アイテムが完成 ・「土佐の清水さば漁師漬け」が日本経済新聞NIKKEIプラス1(6/22付)「何でもランキング」(取り寄せ魚介丼)で全国1位を獲得、いいものおいしいもの発見コンクールでも食品部門の大賞受賞 ・宗田節関連商品の売上16,500千円(うち、ドレッシングシリーズ5品の売上が9,600千円と好調) ・売上額(1月末):109,000千円(去年同期86,000千円)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 25 地元農産物を使った商品開発事業(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市 	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>売れ筋商品の販路拡大 ⇒競合する商品が多い中での販路拡大を行っていくための戦略づくり</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 15 アイテム <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 13 アイテム <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントでの販促活動(14回) ・新商品(ゆずの塩だれ)の販売(京北スーパーでのモニター販売(9月～10月)によりラベルデザインを修正) ・新規プロジェクト(四万十ギョーザ)の推進(餃子製造機械の導入) ・ぶしゅかんどリンク、ボン酢のテレビCM放送(7月～9月) ・ぶしゅかん使用塩ラーメンが全国コンビニ販売(12/9～) ・商談会への出展(東京2回) ・市農商工連携プロジェクト事業報告会(7/8) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>販路の拡大 ⇒新商品の開発、各種イベント等でのPR</p>
<p>■No. 27 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト(四万十市)(再掲)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)しまんと美野里 ・四万十川を良くする会 ・四万十市 ・西土佐商工会 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 8t ・原材料(生栗)の仕入量 12t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 6t ・原材料(生栗)の仕入量 10t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品新サービス開発支援事業(全国商工会連合会)を導入し、アドバイザーの招聘、新商品(パウダー)の完成・販売(7社) ・生栗仕入:約7t ・県内企業を主体とした営業活動により、製品ベースで4tを受注(40社、納品済3.3t) ・起業支援型地域雇用創造事業により1名を雇用(12/1～) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料の確保 ⇒集荷の継続実施

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 33 黒潮印の商品開発(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町 ・黒潮町特産品開発推進協議会 	<p>出荷まで至っていない栗の発掘(新規開拓、栽培管理、収穫支援等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の販路開拓 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産協売上 3,000万円 ・サトウキビ栽培面積 350a ・体験者数 500人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産協売上 1,600万円 ・サトウキビ栽培面積 360a ・体験者数 50人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町単産業推進補助事業交付決定: 5件 ・サトウキビ栽培面積 354a (昨年並み) ・黒糖生産量 (9,427kg) ・らっきょうの黒糖漬けがモンドセレクション銀賞受賞 ・新産業創造事業開発メンバーによる缶詰、スイーツ等の試作品を約40種類製造 ・ラボ(商品の開発研究から製造までの機能を有する施設)建設工事発注(工期:12/2~3/24) ・2月臨時議会でラボの運営を担う新法人の出資案件を可決(設立総会を経て、3月中旬に設立登記) ・百貨店のギフト商品に黒糖商品が採用され30セットを受注 ・売上額(12月末):9,470千円(3月末見込:12,000千円) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>採算性の高い商品の絞り込み</p> <p>⇒新法人設立に伴い特産品開発推進協議会を解散し、新法人に機能を継承</p> <p>新法人は、黒糖製品主体の販売に切替予定</p>
<p>■No. 36 水産物加工施設整備事業(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)土佐佐賀産直出荷組合 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用 5名 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用 3名 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外百貨店等の催事出展(16回) ・裕毛屋(台湾)の黒潮町フェア、高知県フェアに出展。3/28~30には自社フェアを開催

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・「きびなごペースト」が「むらおこし特産品コンテスト」で審査員特別賞を受賞 ・新商品の開発（「きびなごペースト」を使用したバジル風味ソース） ・産業振興アドバイザー招聘：ビジネスプランの作成に向けた関係者による協議（10/9、2/13、3/17） ・商工会事業によるアドバイザーを招聘し整備予定の加工施設の衛生管理面に関する協議（2回） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設の規模拡大 ⇒加工施設の新設について、産振補助金の活用を検討
<p>地域再生への総合的な取組</p> <p>■No. 23 土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画) (土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐食(株) ・土佐清水市 <p>■No. 29 西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト) (四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市 ・西土佐商工会 ・地域事業者等 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む) 200人 ・地元水産物の活用 2,800t ・売上額 15億円 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む) 200人 ・地元水産物の活用 3,300t ・売上額 17億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外展示会等への参加(東京1回、大阪4回、広島他5回) ・原魚取扱量 3,000t (2月末) ・新商品(食品)の開発、販売(6アイテム) ・1月末売上額: 13.96億円 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>食品の更なる販路拡大 ⇒新商品の開発及び販促活動</p> <p>原魚の確保 ⇒漁協、加工組合、加工業者、行政が一体となった対策の検討</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品数 14商品 ・雇用者数 正規2人+α <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品数 15商品 ・雇用者数 正規2人

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 30 拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)(大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一財)大月町ふるさと振興公社 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で2名の雇用継続(既存直販市) ・道の駅基本計画・基本設計書策定 ・道の駅整備検討会の開催 ・地域内各事業者による商品開発7アイテム ・道の駅詳細設計の完了 ・41℃プロジェクトの始動(商工会事業) <ul style="list-style-type: none"> 先進地(熊谷市、多治見市)視察・意見交換 ゆるキャラ(あちちうなぎ しまっち)の着ぐるみ製作 アツいまちサミット・うまいもの合戦の開催(2/8) 来場者数 約350人) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>運営体制の構築</p> <p>⇒道の駅整備検討会、幹事会で検討</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上額 2.5億円 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上額 2.0億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出(移住関連1名、情報発信1名の計2名) ・H25.4.1から一般財団法人の認可 ・道の駅の販売金額は、H26.1末まで104%、おやつ販売101%、入客数102%と善戦(対前年同期比) ・情報発信の撮影・編集をシステム化(小人数での対応化) ・道の駅以str定休日(火)にふれあい市場内で食の提供開始 <ul style="list-style-type: none"> ⇒目標1日50食に対して6回開催平均で1日45食と採算ライン達成 ・4月～12月で、移住相談41件に対して7組18名が移住 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営の改善 <ul style="list-style-type: none"> ⇒地域産業振興アドバイザーの指導を受け、経営の改善を図る ・情報発信の強化と販路開拓 ・移住推進対策として、H26も町予算で公社に委託継続

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 35 佐賀地区の地域資源を活用した拠点 ビジネスの推進(黒潮町)</p> <p>《事業主体》 ・黒潮町</p>	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者数 正規1名、パート7名 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者数 パート10名 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅整備事業の産振補助金交付決定(5/10) ・道の駅整備工事完了(2/28) ・道の駅の名称決定(「なぶら土佐佐賀」) ・道の駅を運営する新法人((株)なぶら土佐佐賀)を設立(10/11):出資団体 8団体、出資額 700万円 ・運営体制の確立(正職員5名、フルタイム5名、パート9名…うち正職員1名、フルタイム、パートは起業支援型地域雇用創造事業による雇用) ・落成記念式典(3/26) ・4/14オープンに向け、社員研修の実施、出店者・レストランメニューの最終調整 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>黒潮一番館との連携 ⇒レストランメニュー等について「なぶら土佐佐賀」と黒潮一番館の協議を継続</p>
<p>滞在型・体験型観光の推進</p> <p>■No. 37 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進(幡多地域全域)</p> <p>《事業主体》 ・(一社)幡多広域観光協議会</p>	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入数4,000人 ・一般旅行受入数30,000人 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入数1,000人 ・一般旅行受入数5,000人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行の受入(12校 972人) ・藤沢アドバイザーによる防災プログラム作成研修、民泊拡大検討会等(8/21~23 黒潮町他、11/27~29 宿毛市他) ・「かげろう映画祭り」(8/24~25 四万十市)開催 ・「楽しまんとうはた博」開催(7/1~12/31) <ul style="list-style-type: none"> ①オフィシャルイベント(19イベント) ②はたの夏休み(11プログラム) ③各種体験プログラムの実行等(54プログラム) ④宝探しゲーム、グルメクーポンの実施 ⑤中四国、関西、関東へのPRキャラバン(12回)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 38 竜串観光再発見事業(土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水市 ・土佐清水市観光協会 ・NPO 竜串観光振興会 ・竜串地区 ・竜串自然再生協議会 	<p>⑥観光施設等入込客数(7月～12月)</p> <p>1,465,371人(対前年比116%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニターツアー実施 27名(はた博1回、教育旅行1回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入観光客の増 <ul style="list-style-type: none"> ⇒「はた博」で造成したイベントメニュー、体験メニュー(54プログラム)のブラッシュアップ さらなる市町村の連携体制の強化 教育旅行の販促活動の強化 ・ポストはた博の推進 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数12.5万人 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数11万人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 竜串観光振興会による海のギャラリーの管理運営(継続した取組) ・ふるさと雇用事業で1名の雇用継続 ・トイレ(3ヶ所)の改修(8/13完成)(県補助金活用) ・竜串の観光資源(はた博体験プログラム)を出会いのきっかけづくり応援事業に活用(カップル2組成立) ・環境省、水産庁事業を活用してサンゴの保全活動(オニヒトデ駆除)実施(6回) ・竜串奇岩フェスティバル(3/9) ・足摺海洋館あり方検討委員会開催(2/20) ・入込客数(2月末) 92,223人(前年同期90,119人) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>地域資源を活かした具体的な戦略展開</p> <p>⇒地区全体の将来ビジョン創造、受入体制の充実</p>
<p>■No. 39 土佐清水まるごと戦略観光展開事業(土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(社)土佐清水市観光協会 ・地域活動団体 ・土佐清水市 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊者数・入込客数82万人 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊者数・入込客数80万人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で2名の雇用継続 ・「ジョン万海の元気まつり」の開催(GWイベント:5/3～5 3,500人、海の日イベント:7/21 600人) ・香港国際旅遊展に「四国の秘境」として出展し、現地旅行業者や一般来場者にPR(6/13～6/16)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 40 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市観光振興連絡会議 ・奥四万十楽しまんとプロジェクトチーム ・四万十市 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョン万次郎資料館の名誉館長に「ビビる大木」さんが就任(4/1) ・あしずりまつり開催(8/2 清水のお客 1,600人、8/3 花火大会 45,000人)(はた博) ・はたフェス in 土佐清水(9/21~22) 15,000人(はた博) ・連泊客誘客促進事業実施(連泊宿泊客に対し、大人3,000円、子供1,500円相当の体験メニュー券を進呈…利用枚数990枚) ・個人型観光客誘致対策事業実施(宿泊客に対し、1人1千円分の地域通貨万次郎券を進呈…12/11 現在利用枚数6,737枚) ・団体客誘致促進事業実施(1人当たり500円を市が補助) ・はた博ステップアップイベント「はたきらり」開催(足摺きらり、竜串クリスマスイベント、天神バックストリート) ・椿まつり開催(2/1~28、2/9のイベントに800人来場) ・花へんろ足摺温泉ジョン万ウォーク開催(2/15~16 2日間延べ来場者数800人) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成 ⇒「はた博」で造成した体験メニュー等のブラッシュアップ</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光商品(体験メニュー)開発数100体験 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光商品(体験メニュー)開発数83体験 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十花絵巻の開催(菜の花、つつじ、桜、花菖蒲、紫陽花、睡蓮、紅葉) ・ドラマ効果の活用策として「四万十川恋のぼり」、「四万十絵馬」を実施(4/1~) ・各種サイクルイベントの開催 ・サイクルトレインの運行 <ul style="list-style-type: none"> 中村~窪川:9月~12月 7回 江川崎~窪川(にゃんよ号延伸):9月~10月 2回 ・四万十ドラゴンライド(11/3~4)開催 ・なしし港祭り開催(9/29 1,500人 前年比較500人増) ・11月を一條大祭無礼講月間として、はた博イベントを集中開催(お座敷大交流会、マルシェ&はしご酒、うまいもの商店街、四万十おきゃく映画祭他)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 42 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO砂浜美術館 ・黒潮町 	<p>・予土県境地域連携実行委員会の設立(3/27)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>通年・滞在型観光に向けた観光商品の開発・ブラッシュアップ</p> <p>⇒テレビドラマのロケ地を活かした観光客の誘致</p> <p>愛媛県と連携したサイクルイベント等県境連携の強化</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 60 万人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 69 万人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Tシャツアート展開催(5/3～5/8 16,614人) ・砂浜美術館モニターツアー 雑誌編集者向け(6/19～20 5人) ・民泊受入衛生講習会(5/21 10人) ・スポーツ合宿、大会の招致(8団体 1,349人) ・スポーツ合宿誘致活動(19団体) ・星降る砂浜美術館 砂と光のアート展開催(7/7 砂像づくり参加者:260人、来場者:4,500人)(はた博) ・潮風のキルト展開催(11/22～24 1,965人) ・黒潮町まるごと産業祭開催(12/1 4,000人) ・黒潮町観光ネットワーク全体会議開催(11/6) ・産振アドバイザーを招聘し、ヘルスツーリズム勉強会を開催(4回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>宿泊観光客の増</p> <p>⇒スポーツ大会、合宿の誘致活動の強化</p>

②上記以外で特記すべき取組 特になし

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況 (交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 15 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業 (宿毛市)	・宿毛湾近海で獲れるブリ・カツオ・キビナゴを活用し、消費者ニーズに基づく商品開発と販売促進 (水産加工施設 1 式の整備等)	60,262 (30,019)
■No. 35 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進 (黒潮町)	・道の駅(「なぶら土佐佐賀」)の施設整備	168,531 (50,000)
■No. 17 宗田節の販路拡大に向けた取組 (土佐清水市)	・宗田節商品の製造における作業効率と生産能力の向上を図るため、「充填機」、「賞味期限等の印字機」、「金属検出器」を導入	11,676 (7,728)
■No. 2 洋ランのブランド確立・流通促進事業 (宿毛市)	・宿毛市並びに県内の洋ラン農家が新たな組織を立ち上げ、各生産者が生産した洋ラン商品を一元的に集荷・パッケージ化し、既存流通市場の他に直接小売店や消費者にも販売	24,114 (11,482)

3 県民参画に向けた取組

- ・幡多地域のパネル展示 (4/19～5/2：県庁 1 階)
- ・北郷集落活動センターへの支援 (4/20 開所式：旧北郷小学校)
- ・中村商工会議所青年部総会で産業振興計画、地域 A P 概要説明 (4/23)
- ・幡多信用金庫との包括協定連絡会 (4/24、2/21)
- ・橋上地区集落活動センター説明会 (4/24：神有多目的集会所)
- ・三原村集落活動センター推進協議会設立 (5/14：構造改善センター)
- ・高知県技術・市場交流プラザで産業振興計画の概要説明 (幡多地区：5/22)
- ・西土佐商工会総会で産業振興計画、地域 A P の概要説明 (5/24)
- ・高知県産業振興計画シンポジウム (5/24：いの町すこやかセンター)
- ・大宮集落活動センターへの支援 (5/26 開所式：株式会社大宮産業・旧大宮小学校)
- ・四万十市との産業振興計画勉強会 (5/31：四万十市役所)
- ・高知県産業振興計画シンポジウム (6/7：津野町酒蔵ホール「葉山の蔵」)
- ・楽しまんと！はた博 (7/1～12/31)
6/29～30 のイベントを始め、幡多 6 市町村で各種イベントを開催
- ・結プロジェクト
 - ①10 月 1 日～ 2 日 (宿毛市)：夏祭りの開催を幡多信用金庫が支援
 - ②10 月 12 日～13 日 (四万十市)：银杏祭りの開催を高知大学が支援
- ・対話と実行座談会 (12/18 「魅力ある地域づくりについて」)
- ・アツイまちサミット・うまいもの合戦の開催 (2/8 来場者数 約 350 人)
- ・佐賀町北部地域で集落活動センターエリア別研修会を開催 (2/12)

4 相談案件：9件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	5/17	医療	幡多地域の病院施設に食材を供給するシステムに関する相談
2	5/23	起業事案	外国人用パンフ作成事業の起業化相談
3	5/24	加工技術	食材加工技術（燻製）に関する相談
4	6/4	農業堆肥	雇用創出目的の農業用堆肥製造に関する相談
5	6/5	水産	直七真鯛PR促進が可能な事業の相談
6	6/17	NHKドラマ	NHK高知放送局スペシャルドラマ「はちきん母ちゃん」に関する相談
7	7/25	水産加工	宗田節加工商品の販売促進に関する相談
8	11/6	農業加工	三原村のユズ自動選果機械、搾汁、加工施設整備に関する相談
9	2/28	水産加工	土佐清水市下ノ加江地区で水揚される魚の一次処理施設に関する相談

